

平成27年度 土曜日の教育支援事業一覧

「学ぶ力」学習支援型：2市1町3教室 体制構築型：3市1町35教室

市町名	教室数	活動名	実施場所	「学ぶ力」 学習支援型	体制構築型	委託	委託団体名
彦根市	1	土曜教室「てみる」	中央中学校	○		○	NPO法人 Links
甲賀市	10	水口中央公民館親子ふれあい講座	水口中央公民館		○		
		水口中央公民館子ども公民館講座	水口中央公民館		○		
		土山中央公民館親子ふれあい講座	土山中央公民館		○		
		土山中央公民館子ども公民館講座	土山中央公民館		○		
		かふか生涯学習館親子ふれあい講座	かふか生涯学習館		○		
		KOKA楽こども公民館	かふか生涯学習館		○		
		甲南公民館親子・家族のわくわく講座	甲南公民館		○		
		甲南公民館子ども体験講座	甲南公民館		○		
		信楽中央公民館親子食育講座	信楽中央公民館		○		
		信楽中央公民館子ども講座	信楽中央公民館		○		
湖南市	10	いしべっ子学習教室	石部小学校・石部まちづくりセンター	○			
		さんさん教室	夏見公民館・柑子袋公民館		○		
		ひがしっ子教室	三雲児童館・三雲まちづくりセンター		○		
		岩根小土曜教室	岩根小学校		○		
		菩提寺学区 土曜日教室	菩提寺まちづくりセンター		○		
		菩提寺学区 土曜日事業	菩提寺まちづくりセンター		○		
		しもしょう サマースクール 2015	下田小学校		○		
		みとっこ宿題応援隊	市民学習交流センター		○		
		甲西北中学学習教室	甲西北中学校		○		
		日枝中学校土曜日事業	下田小学校・市民学習交流センター		○		
東近江市	9	そろばんクラブ	蒲生コミュニティセンター		○		蒲生地区 地域教育協議会
		蒲生野太鼓わらべ組	蒲生コミュニティセンター		○		
		マックスダンス (初級)	蒲生コミュニティセンター		○		
		マックスダンス (中級)	蒲生コミュニティセンター		○		
		マックスダンス (上級)	蒲生コミュニティセンター		○		
		ITキッズクラブ	蒲生コミュニティセンター		○		
		KIDS FLOWER	蒲生コミュニティセンター		○		
		陶芸クラブ	蒲生コミュニティセンター		○		
		囲碁・将棋クラブ	蒲生コミュニティセンター		○		
竜王町	7	和太鼓クラブ	竜王町公民館		○		
		絵画クラブ	竜王町公民館		○		
		宇宙科学クラブ	竜王町公民館		○		
		チャレンジクラブ	竜王町公民館		○		
		料理クラブ	竜王町公民館		○		
		書道クラブ	竜王町公民館		○		
		吹奏楽教室	竜王町公民館		○		
多賀町	1	土曜講座(サタスタ)	あけぼのパーク多賀	○		○	株式会社ケイ・エム・ ジーコーポレーション
計	38			3	35		

彦根市における土曜日の教育支援の取組（「学ぶ力」学習支援型）

持続発展教育（ESD）持続可能な社会・時代を担う彦根の子どもを地域のみんなで守り育てます。

■めざす姿

- 地域の多様な経験や技能を持つ人材・企業等の参画により、土曜日に体系的・継続的なプログラムを計画・実施する取組を支援し、教育支援体制の構築を図ることにより、子どもたちにとってより豊かで有意義な土曜日を実現する。

■本年度の活動

彦根市学校支援地域本部事業「学ぶ力を育てる土曜学習支援」

土曜学習支援：中央中学校で実施する。学び育ち教室 Learning Links の発展としての位置付け。

- 「土曜教室 てみる」― 子どもの「〇〇てみる」を応援する。

彦根市立中央中学校における土曜教室を開講。大学生や地域社会人らによる学習補助やコミュニケーションを通じて、子どもたちの学びへの動機づけ（来てみる・やってみる・失敗してみる）や将来のロールモデルを見つけることをねらいとする。

○活動内容

- ・開講日 第1および第3土曜日の月2回（プログラムを施行しながら内容の充実を図る。）

9月5日（土）よりスタートする。20名1クラスで、子ども2人に推進員1名配置。授業の最初にはプリント学習で気持ちの準備を図る。プリントの後、各自の宿題・課題・ワークブック（学校支給のものが良い）を行う。

- ・時間割の例 ①プリント学習（漢字検定／数学検定）と答え合わせ（20分）

②学習時間（40分）③休憩（10分）④学習時間（40分）⑤サポーターとの交流活動（10分）

※クラス終了後、サポーター間の振り返り（30分）

- 実行委員会の開催（年3回） 構成委員：16名（各中学校長、地域コーディネーター、土曜学習コーディネーター、彦根市PTA連絡協議会会長）

事務局（生涯学習課長、主幹、学校教育課長、副主幹）

8月4日（火）事業説明・実践交流 11月30日（月）研修会・実践交流 3月 実践報告会

- 学校訪問 11月 7中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

■本年度の成果

- 個別指導をベースとしたきめ細やかな指導ができた。それぞれの生徒のニーズ、スピードに応じた学習活動が展開できた。

- 学習支援者の真摯な指導姿勢により、充実した学習支援活動が継続できた。

- 土曜学習コーディネーターの連絡・調整により計画的な取組が展開できた。

■今後の課題

- 事業を支える支援ボランティアの確保（学習支援に係る学生ボランティア等）人材バンクの整備

■その他

- 彦根市ではESD（持続発展教育）教育、持続可能な社会を担う人づくりを進めている。さらに「地域とともにある学校」の創造にも力を入れている。今後、コミュニティ・スクールとの一体化を視野に入れた取組・地域で学校を支える仕組みづくりについて、さらに整備・検討していきたい。



【土曜教室てみる】

■ 土曜学習支援「土曜教室 てみる」 (中央中学校)

■ 彦根市	
■ 活動名	土曜教室「てみる」(「学ぶ力」学習支援型)
年間開催日数	13日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	9人
子どもの平均参加人数	8人

■ 活動の概要

生徒の土曜日の教育環境の充実に取り組む「地域の豊かな社会資源を活用した土曜日の教育支援体制等構築事業」として、彦根市内中学校に先駆けて今年9月から土曜学習支援「土曜教室 てみる」をスタートした。この教室は、学校の教員ではなく、土曜教室コーディネーターと地域の大学生や社会人による教育推進員が運営している。生徒たちへの学習補助や推進員との対話を通じて、学びへの動機付け(来てみる・やってみる・失敗してみる)や将来になりたい姿を見つけることをねらいとしている。

■ 特徴的な活動内容

学習補助による基礎学力の定着と対話によるコミュニケーション能力・社会性の向上を目的に、授業教材・ワーク、プリントを使った自主学習をベースにわからない箇所の指導をしている。生徒の状況を見ながら、国際理解に役立つ学習活動やワークショップ等の生徒間交流も予定している。

■ 実施に当たっての工夫

多くの生徒に参加機会を与えるために、前期8回(9~12月)、後期5回(1~3月)に分けて参加生徒を募集している。

学習面では、教室の最初に100マス計算や漢字検定プリントを行い、学びへのウォームアップをしている。また生徒の個別ファイルをつくり、教室で使ったプリントなどをその場でファイルさせ、自身の学習記録として保存している。1日の学習計画として、プリント⇒宿題・ワーク40分⇒休憩10分⇒宿題・ワーク40分⇒対話としているが、生徒のコンディションに合わせて時間配分・学習内容を決定している。

学校での教員と生徒の関係ではない、いわゆるナナメの関係で接することが大切である。生徒と推進員との人間関係を築くために双方が名札を着用する。名札には「好きなこと、はまっていること」などを記載し互いを知るツールとして使っている。関係性が浅い時点では、生徒のことを質問するのではなく、先に推進員が自己開示するなど安心感を与えることが大切である。学習指導ではあるが、「～しなさい。」という強制はせず、「～してみる？」という声かけで子どもの自主性を促すことに努めている。

■ 事業の成果

前期講座の定員を20名としていたが、実際は10名の参加であったため、推進員とマンツーマンでの学習指導となり、生徒にとって充実した学習の場になった。腰のヘルニアのため、長時間学校で学習できない生徒の学力補充をする機会にもなった。

■ 事業実施上の課題

土曜日午前中の教室で、部活動があるため参加したくてもできない生徒がいる。また、地域人材を活用して推進員を集めるのは大変であり、コーディネーターのつながりで集めた。後期の参加生徒が増加すると、推進員を増員する必要があるため、その人員確保が大変である。生徒への学習指導を考えると、推進員の人数も大切であるが、あわせて指導力を充実させることも必要である。

■ その他

前期参加者アンケートの結果(%)

1よくあてはまる 2ややあてはまる 3あまりあてはまらない 4全くあてはまらない

【質問内容】	生徒				保護者			
	1	2	3	4	1	2	3	4
開催日時はよかったですか。	43	43	14	0	71	29	0	0
学習内容はよかったですか。	57	43	0	0	33	67	0	0
参加してよかったですか。	57	29	14	0	86	14	0	0

【感想・意見】

〈生徒〉・家だとなかなか勉強しないので、土曜教室に参加してわからない所を教えてもらって少しずつできるようになった。

・土曜教室のおかげで、学校で話す人や自分なりの行動が増えました。これから人との関わりを増やしていきたい。

〈保護者〉・大学生の方と関わることで、将来のイメージにもつながる機会となり、家でも話をしてくれています。

・土曜日に制服を着て学校へ行って勉強をする習慣は良いと思います。また塾に行かせられる経済的な余裕はなく、夜遅く女の子1人行かせなくてもよいので、家庭にとってはありがたい教室だと感謝しています。



【土曜教室てみる・学習の様子】

■ 甲賀市における土曜日の教育支援の取組 (体制構築型)

■めざす姿

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。子どもと地域との交流、連携、学習意欲の向上、仲間づくりを図り、学習を生かす機会を提供することによって、社会還元を促す。

■本年度の活動

地域の多様な経験や技能を持つ人材・高等学校・企業等の協力を得ながら、土曜日、休日に各地域の公民館において、親子教室や子ども教室を開催した。

担当職員を対象に企画から事業評価まで、事業実施に向けて研修を行った。

■本年度の成果

子どもたちの安全・安心な居場所づくりができた。地域の方々の参画を得て、地域交流が図れた。

■今後の課題

広報紙や学校を通じてチラシを配付しているが、参加者が少ない教室もあり、チラシ作成の工夫、啓発活動の工夫が必要である。

また、子どもたちにとってより豊かな魅力ある事業の展開が必要である。

さらに、地域の人材発掘、人材育成にも力を入れたい。

■その他

市内公民館合同で、毎年、「夏休み工場見学」を実施している。子どもたちが市内の工場や施設を見学し、企業を知ることによって将来への幅を少しでも広げてもらうことができ、また、地域を学ぶことで郷土愛を育む機会となるよう企画した。

また、毎年 10 月の土曜日に企業や高等学校、シルバー人材センター等の協力を得て、いろいろな体験コーナーを設け「まなびの体験広場」を開催している。

甲賀市 URL : <http://www.city.koka.lg.jp/>



【まなびの体験広場 2015（平成 27 年 10 月 10 日開催）】

■ 親子でさまざまな人、ものとふれあうよい機会となりました！

■ 甲賀市	
■ 活動名	
水口中央公民館 親子ふれあい講座（体制構築型）	
年間開催日数	7 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	2 人
子どもの平均参加人数	10 人

■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育み、親子の絆を深める。

【主な活動内容】

ポーセラーツ（自由な発想で楽しむ磁器上絵付け）

天体観測

図書館を探検

ニュースポーツ体験

指で描くクリスマスカード

親子でクッキング

■ 特徴的な活動内容

甲賀市内の小学1年生から3年生の子どもとその保護者（親子）を対象としている。

■ 実施に当たっての工夫

講師は、できるだけ甲賀市教育人材バンク登録者や自主学習登録団体、または地元の方をお願いするようにしている。

■ 事業の成果

各講座とも、親子で楽しく活動できている。

保護者の方にとっては、普段の生活ではなかなか見られない子どもの様子や、自分が思ったより成長している我が子の姿を実感できる場ともなっているようである。

講師の方も、ご自身が学習する機会ともなっているようで、たくさん子どもたちとふれあえる貴重な体験であったとお聞きしている。

■ 事業実施上の課題

参加対象となる子どもたちも、いろいろな学校行事や地域の行事、その他さまざまな活動がある。それらとの兼ね合いをどうしていくか、また、より魅力のある講座をどのように開催していくかが課題である。



【親子で相談しながら・・・（ポーセラーツ）】



【実際見る前にプラネタリウムで予習！（天体観測）】

■ 子ども自身も「成長」を実感できる講座に！

■ 甲賀市	
■ 活動名	水口中央公民館 子ども公民館講座（体制構築型）
年間開催日数	8日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	10人

■ 活動の概要

体験活動を通してさまざまな人、もの、知識や技術と出会い、その積み重ねにより子どもの成長を育む。

【主な活動内容】

さつまいもを植えて、育てて、収穫して、料理する講座

夏休み・冬休み宿題お助け講座（統計、粘土工芸、コラージュ、書き初め）

■ 特徴的な活動内容

甲賀市内の小学4年生から6年生の子どもを対象としている。

■ 実施に当たっての工夫

「さつまいも」に関する講座は、一貫性のあるものとする中で、「いろいろなことがつながっている」ということを、身をもって体験してもらうことができた。また、多種多様なことが体験できた。

講師は、できるだけ甲賀市教育人材バンク登録者や自主学習登録団体、または地元の方をお願いするようにしている。滋賀県が実施している出前講座も取り入れた。（滋賀県統計課・しが統計キッズクイズ、県立近代美術館・コラージュ）

■ 事業の成果

各講座とも、子どもたちは楽しみながらもしっかりと学ぶことができた。

子どもたちも実際にいろいろ体験する中で、良い感性を磨くことができた。

■ 事業実施上の課題

参加対象となる子どもたちも、いろいろな学校行事や地域の行事、その他さまざまな活動がある。

それらとの兼ね合いをどうしていくか、また、より魅力のある講座をどのように開催していくかが、課題である。



【まずは畑の草引きから！（さつまいも）】



【何を貼り付けようかな？（コラージュ）】

■ 親子の「知りたい」「学びたい」をお手伝い

■ 甲賀市土山町	
■ 活動名	
土山中央公民館 親子ふれあい講座（体制構築型）	
年間開催日数	4 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	8 人
子どもの平均参加人数	15 人

■ 活動の概要

親子で、力を合わせて「ものづくり」通して絆を深める。

■ 特徴的な活動内容

作品制作（陶芸体験）・・・・・・・・・・・・・5月17日（12名）

作品制作（竹細工づくり）・・・・・・・・・・・・・7月11日（9名）

作品制作（木エクラフト）イスづくり・・・・・・・・・・・・・10月24日（中止）

おかしづくり（クリスマスケーキのデコレーション）・・・11月21日（24名）

作品制作（エコクリスマス飾り）・・・・・・・・・・・・・12月12日（10名）

■ 実施に当たっての工夫

ものづくりを通して環境学習やリサイクルの学習をしている。特に人気があったおかしづくりでは、子どもたちも大変興味をもち定員オーバーでキャンセル待ちの盛況であった。参加した親子に何がしたいか聞き取り次回の講座の参考にしている。

■ 事業の成果

参加者はどの事業についても大変楽しんでた。特に作品制作やおかしづくりは、少し難易度をあげ親子で協力し、絆を深められた。また、一度参加された親子は継続して次回の事業にも参加していただく傾向もあった。

■ 事業実施上の課題

一度参加されると講座の雰囲気にも慣れ次の講座にも参加しやすくなるが、まずは第一歩を踏み出していただけるように周知の方法を考える必要がある。また近年の少子化やスポーツクラブへの参加等で参加される子どもが減少傾向にある。



【竹細工づくり】



【ケーキのデコレーション】

■ あいの土っこ “きらねっ人” いきいき活動

■ 甲賀市土山町	
■ 活動名	土山中央公民館 子ども公民館講座（体制構築型）
年間開催日数	10日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	32 人
子どもの平均参加人数	14 人

■ 活動の概要

地域の大人が指導者・スタッフとなり、さまざまな体験活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

特産品や季節に応じたおやつづくり（いばらだんご、イチゴ大福、クレープ）

作品制作（折り紙、紙ブーメラン、スライム、ストロー飛行機、絵手紙）

ふれあいあそび（おじゃみ、輪投げ、けん玉、カロム、布製オセロ、坊主めくり）

■ 実施に当たっての工夫

ボランティアバンクに32人の登録があり事業への参加はその都度登録者に案内し、協力を求めている。

また、保護者に送迎をしていただいている。子どもが参加しやすいように4つの公民館や町内の公共施設を巡回して開催実施している。文化祭や宿場まつりなど地域での事業にも協力して参加者が増えるようにしている。

■ 事業の成果

特に夏休みのあそびのひろばでは、長期休暇中に友達と出会えて楽しく過ごしておられた。参加児童も多く休日の受け入れとしてまだまだ必要であると考えている。

■ 事業実施上の課題

年々、参加者が減少傾向にあり、内容のマンネリ化も課題のひとつである。地域のヒト・モノを活かしながら、新しい体験活動（メニュー）を取り入れるなどの工夫が必要である。また、ボランティアが高齢化しており人数も減少傾向にあり、新しいボランティアの育成が必要である。



【折り紙（区民祭）】



【おじゃみ（あそびのひろば）】

■ めざせ！ 天文はかせ（こども天文クラブ）

■ 甲賀市	
■ 活動名	KOKA楽こども公民館「こども天文クラブ」（体制構築型）
年間開催日数	8 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	4 人
子どもの平均参加人数	25 人

■ 活動の概要

天文知識の向上と仲間づくりを目的とし、子どもたちの交流を図りながら併せて環境問題についても考える機会とする。

■ 特徴的な活動内容

天体観望・・・西日本最大級の屈折型天体望遠鏡を使い、太陽系内外の惑星・恒星の観望や季節の星座について学ぶ。

流星群観察・・・8月のペルセウス座流星群を親子や友達などと一緒に観察する。

市外研修・・・大津市科学館、名古屋市科学館のプラネタリウムや館内展示などを見学する。

クラフト工作・・・太陽系の惑星や月、人工衛星、星座早見盤などのペーパークラフトを作る。

■ 実施に当たっての工夫

当館で定期的（月1回）に開催している天体観望会にも将来スタッフとして協力いただけるよう、新たな人材育成の場としても位置付けている。また、市外研修など当施設外での活動を実施する場合は、2～3人一組でバディを組んだうえでグループ行動をさせるなどし、事故の未然防止を図るよう注意している。さらに、毎回天体に関するミニ知識を記載したものや黄道十二星座を記載したものを出席カードとして参加者に配付、すべて参加した受講者にはささやかなプレゼントと表彰状を渡すなど、子どもたちの学習意欲を喚起するような工夫もしている。

■ 事業の成果

毎年50名前後の受講申込みがあり、当館では最も人気の高い講座である。当講座は市内では当館のみで開催しており、受講者は学区内にとどまらず市内の広範囲に渡るため、多くの小中学校の児童・生徒が交流できる貴重な機会ともなっている。

■ 事業実施上の課題

天文現象は深夜から未明にかけて出現することが多いが、小中学生を対象とした事業であることから、観測に適した時間に開催することは困難である。また、内容的に比較的高度な専門知識を必要とするが、今後も安定的に事業を実施していくには、新たな指導者・スタッフなどの人材育成を図る必要がある。市内や近隣の高校の科学部（天文同好会）などに呼びかけ、生徒にスタッフとして参画いただくような方法も模索している。



【大型天体望遠鏡での月の観察】



【クラフト工作（地球儀づくり）】

■ 親子・家族のわくわく講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	甲南公民館 親子・家族のわくわく講座（体制構築型）
年間開催日数	1 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	12 人

■ 活動の概要

親子・家族で生活・自然体験を通じ、親子・家族の絆を深め、さらに参加者同士の交流を促し地域の絆を深める。また、公民館が実施する家庭教育支援に位置づける。

■ 特徴的な活動内容

料理づくり

■ 実施に当たっての工夫

子どもの自主性、自立心を向上させるため、子どもが主体的に活動し、大人はサポート役で参加できるよう事業展開している。例えば、包丁を使う作業のように、危険だから親が全てをするのではなく、子どもができること親がしなければならないことを講師と事前に打ち合わせている。

■ 事業の成果

アンケート結果から、「いつもとは違う子どもの姿が見られた」や「親子で参加してよかった」などの声が聞かれ、また、事業継続を希望する意見が多数あった。子どもは自立と自信を高め、子どもができないことを親がするとき尊敬の感情が見られたことから、親子の絆を深めるよい機会であった。

■ 事業実施上の課題

親子関係がある程度成熟していると思われる親子・家庭の参加が大半であり、参加しづらい親子・家庭に対する家庭教育支援をどのように実施していくべきかが課題である。



【料理づくり】

■ 子ども体験講座

■ 甲賀市	
■ 活動名	
甲南公民館 子ども体験講座（体制構築型）	
年間開催日数	8 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	3 人
子どもの平均参加人数	16 人

■ 活動の概要

生活・社会体験を通じ、子どもが心身ともに健やかに成長していく上で大切なコミュニケーション能力や協調性を育む。また、公民館が実施する子ども教育支援に位置づける。

■ 特徴的な活動内容

科学
ものづくり
料理
音楽祭

■ 実施に当たっての工夫

町内児童・生徒の手に行き渡るよう、学校と連携しチラシを配布している。講座内容について、夏休みの宿題に参考となるようなクイズ等を実施し、また、講師は当公民館の自主活動団体に依頼し、地域づくりに向けた人材育成の一面も持ち合わせている。

■ 事業の成果

中高生対象事業に取り組めていなかったことから、音楽活動（社会体験活動）を通じた社会教育という位置づけで「クリスマス音楽祭」を実施した。参加者による実行委員会方式で企画運営し、「誰かにしてもらおう」ではなく、「自分でする」ことを重要視し、主体性や協調性を育むことができた。また、出演だけでなく、音響照明のスタッフとしての参加があり、職業体験を通じた「生きる力」を身につける貴重な機会でもあった。

■ 事業実施上の課題

限られた財源の中から事業化していく必要があることから、事業に携わっていただける市民を育成するのが急務である。生涯学習を通じたまちづくりという理念のもと、そのための政策として市民大学や講座があるという体系を、行政だけでなく市民に浸透させることが課題である。



【親子料理】



【イスづくり】

遊陶里カレッジ

■ 甲賀市	
■ 活動名	信楽中央公民館 親子食育講座（体制構築型）
年間開催日数	1 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	1 人
子どもの平均参加人数	9 人

■ 活動の概要

- ・ 食に対する適切な判断を養うことで健全な食生活を送り心身の健康と豊かな人間性を育む。
- ・ 食生活が自然の恩恵の上に成り立っており、食に関わる人々の様々な活動に支えられていることに感謝し理解を深める。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 収穫体験
自分たちが食べる学校給食の材料（にんじん）を収穫
収穫から出荷までの工程を見学
- ・ 料理実習と試食
収穫体験で採れた野菜を使って親子料理実習
- ・ ミニ食育講座
「噛んで育てる元気な子」と題し管理栄養士さんのお話

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 地元営農組合と管理栄養士、公民館が3者が得意分野を生かし実施することで、収穫から料理、食べるという一連の流れを体験できるようにした。
- ・ 学校給食で使用する野菜を収穫し、普段どんな野菜が給食で食べているのか知る機会とした。
- ・ その日に収穫した野菜を使った献立とした。

■ 事業の成果

- ・ 学校給食に使用される 900 k g ものにんじんをみんなで楽しく収穫し、出荷するための洗浄やそれをそのまま試食させてもらうことで農業や食について楽しく学ぶことができた。
- ・ 料理教室では、包丁の扱い方や切り方、茹で加減、味付けなどを体験、メインからデザートすべてにその日収穫した野菜を使い料理し、何度もおかわりする子や野菜をあまり食べない子もキレイに残すことなく頂けた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 当初の企画では、植付けから食事までの計画であったが、定員に達しなかったため企画を変更し再募集した。
- ・ なかなか人が集まりにくく、要因としては、スポ少や習い事、塾などで空いている日が少なく日程が合わないことにある。
- ・ 小学生を対象にした講座は日程の設定に苦慮している。

■ その他



【採れたての野菜をみんなで調理】



【立派なにんじんの畑】

■ 湖南省における土曜日の教育支援の取組（「学ぶ力」学習支援型・体制構築型）

■めざす姿

子どもが日頃の学校での学習をさらに深めたり、もっと知りたい、学びたいという意欲を高めたり、実社会で役立つ力として定着させたりすることは重要である。そこで、土曜日や長期休業中に、地域の大人や卒業生（中高連携、小中連携）の支援を受けて学習や体験活動ができるプログラムを設定し学ぶ意欲を高め、学ぶ力を高める機会を提供している。子どもの教育活動に複数以上の地域の人に関わることで、教員とは違った視点から子どもを多面的に見ることができ、その情報を教員と共有することで学校教育に生かしていきたい。

■本年度の活動「学ぶ力」学習支援型… 1校 石部小学校

体制構築型… 9校 下記のその他の小・中学校

実施校	開催日数	活動場所	主な内容
石部小学校	20日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
三雲小学校	10日	公民館、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
三雲東小学校	10日	児童館、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
菩提寺小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
菩提寺北小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充、学習の発展
岩根小学校	25日	まちづくりセンター	学力補充（基礎・基本定着）
下田小学校	10日	学校	学力補充（課題学習）
水戸小学校	10日	学校、まちづくりセンター	学力補充（課題学習）
甲西北中学校	11日	学校	学力補充
日枝中学校	12日	学校、校区小学校	学力補充、学習の発展

■本年度の成果

- ・ 子どもの状況や地域の実情に合わせて、「学ぶ力」学習支援型1教室、体制構築型9教室をそれぞれ特色あるプログラムで実施。特に、多世代の交流（地元の大人や中学生、高校生、大学生との交流）は地域コーディネーター、コーディネーター間、中学校区の連携の取組の中で高めてきた経緯がある。子どもたちの学習や体験活動を豊かにし、学ぶ力を高める事業となっている。
- ・ 地域が学習の発展として体験活動や学習の場を提供したり協働して取り組むことが徐々に定着にできたことは、地域における子ども育ての意識が高まりつつあると捉えている。
- ・ この事業の推進にあたり、地域まちづくり協議会等の協力や支援を得ることにより、子ども同士の人間関係を支えていただく場ともなっている。
- ・ 土曜教育推進員（教育支援ボランティア）の力は、学校教育にとっても得がたい強みである。

■今後の課題

- ・ プログラムの内容は、子どもが何を求めているのか（必要としているのか）を見極めることが大切であるため、計画立案、事前準備に多くの時間を要する。
- ・ 土曜教育推進員の人材確保が難しい。中学校は部活動との関係があり、実施日の調整が難しい。
- ・ 子ども対象の保険料や教材費等への財政的な裏付けが弱く、保護者の負担にならざるを得ない。
- ・ 学力向上の取組であり、学力の底上げになっていることをいっそう周知していく必要がある。

■その他 湖南省 HP <http://www.city.konan.shiga.jp/>

広報番組「きらめき湖南」平成27年11月放送分『楽しくて 力のつく湖南省教育』

子どもたちと一緒にいろいろな活動に取り組み、ふるさと石部の未来を拓く力を身につけさせる

■ 湖南市	
■ 活動名	
いしべっ子 学習教室 （「学ぶ力」学習支援型）	
年間開催日数	20日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	16人

■ 活動の概要

- ・長期休業期間や土曜日を利用して、地域の大人と触れ合いながら学習や体験活動をすることにより、学ぶ楽しさを体感させ学ぶ意欲を育てる場とする。

■ 特徴的な活動内容

- ①いしべっ子夏休み宿題教室 7月18日（土） 7月31日（金） 8月7日（金） 8月19日（水） 8月26日（水）
夏季休業中5日間（午前中に2回・計10回）を設定し、夏休みの宿題や自主学習をする場を設け、地域のボランティアが学習の支援をする。
- ②郷土資料博士になろうパート2 8月3日（月） 8月10日（月） 8月18日（火）
夏期休業中3日間を設定し、「昔の道具を使ってみよう」をテーマに、郷土資料を学習したり実際に昔の道具を使って体験活動をする。「ガチャポンプと手洗い」「せいろでジャガイモを蒸す」「石うす」「天秤（さおばかり）」「計算機」
- ③わくわく科学実験教室 9月19日（土） 10月3日（土） 10月17日（土） 10月31日（土）
土曜日の4日間を設定し、「電池を作ってみよう」「色の化学変化を楽しもう」「電磁石を作ってみよう」「電流・電圧を測ってみよう」をテーマに、実験をする。
- ④いしべっ子ロボット教室 11月28日（土） 12月12日（土） 12月26日（土）
土曜日の3日間を設定し、レゴブロックを組み立ててロボットを作り、パソコンからの簡単なプログラミングでロボットを動かす。

■ 実施に当たっての工夫

- ①事前に緻密な計画を立て、会議で十分に協議し、準備に時間をかけた。校区のまちづくり協議会にも協力をお願いし、会場をまちづくりセンターに設定し、子どもたちが安全に楽しく学習ができるよう配慮した。学習支援ボランティアも地域の方々に協力いただいた。校区のまちづくり協議会には受付や駐輪場の管理などの協力もいただいた。
- ②昨年に引き続き、講師を地域の団体にお願いし、活動を指導していただいた。事前に子どもたちがする体験活動を試す時間をもち、活動がスムーズに進むようにしてくださった。
- ③講師は昨年同様、地域のボランティアにお願いし、指導していただいた。実験は子どもたちが安全にできるもので、また、子どもたちが興味を持ちそうなものを計画してくださった。
- ④講師はNPO法人のスタッフの方々にお願いし、子どもたちが興味を持って取り組めるよう、3回シリーズで内容を考えてくださり、活動しやすい計画を立ててくださった。

■ 事業の成果

- ①校区のまちづくり協議会や地域の学習支援ボランティアの協力に支えられ、のべ166名の子どもたちが参加し、安全に楽しく学習ができ、帰り際には達成感や満足感の感じられる姿が見られた。また来年もして欲しいという声が多く寄せられている。
- ②実際に昔の道具を使う体験活動をすることにより、昔の生活の様子や大変さが理解できた。子どもたちは自分の目で見て、実際に道具に触れて使う活動に大変興味深く取り組んでいた。
- ③実験がしやすいように、事前に実験セットを作って用意してくださったことにより、子どもたちがスムーズに実験に取りかかれた。また実験セットを家に持ち帰ることができたので、自分の納得のできるまで何度も実験ができることを喜んでいて、講師の説明の中には難しい内容も含まれてはいたが、自分の生活と関連づけて考えることができていた。
- ④3回シリーズでのロボット教室は子どもたちが興味を持って取り組む内容であった。

■ 事業実施上の課題

- ・「わくわく科学実験教室」や「いしべっ子ロボット教室」では、実験用具や材料および講師謝礼に経費が高額となり、今年度は校区のまちづくり協議会より援助が得られたが、今後活動を進めて行くに当たっては一考を要する。
- ・「いしべっ子夏休み宿題教室」は適切な場所で活動できたが、参加人数によっては下学年と上学年、あるいは低学年・中学年・高学年に部屋を分けて実施する方法を考えなくてはならない。また、その場合、今年以上に学習支援ボランティアの確保が必要となる。

■ その他

- ・土曜日事業の取組には、地域の関わりが大事であり、校区のまちづくり協議会との連携が必要不可欠であると思われる。



【いしべっ子夏休み宿題教室】



【わくわく科学実験教室】

■ 夏休みの宿題をみんなで一緒にがんばろう ～ さんさん教室 ～

■ 湖南市	
■ 活動名	さんさん教室 (体制構築型)
年間開催日数	10日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	4人
子どもの平均参加人数	35人

■ 活動の概要

夏休み中の10日間を使い、2か所の会場で学習会を開いた。

内容は ①夏休みの宿題に取り組むこと、②地域の方を迎えて調理や実験など様々な体験をすることの2本立てとした。

■ 特徴的な活動内容

各日、前半1時間を学習の時間に、後半1時間程度を体験の時間とした。

学習の内容は夏休みの宿題を主にし、宿題を終えた児童は自主学習をした。

体験活動の内容は ①シャボン玉ミニ実験 ②腹話術と銭太鼓 ③大型紙芝居と昔あそび ④音楽 ⑤パン作り教室

■ 実施に当たっての工夫

- ・校区が東海道に沿って東西に長いので、児童が参加しやすいよう東西2ヶ所の会場（公民館）で開くこととした。そのため、同じ内容の企画を2回ずつ実施した。
- ・会場への行き帰りは安全が第一であるが、保護者の送迎を必須とすると参加が制限される場合もあるので、徒歩、自転車、車での送迎と手段は問わずに保護者了承してもらった。
- ・学習だけでは、集中力が持続しないことが予想されたので参加型の体験活動を組み込んだ。
- ・学習の支援をする推進員には日頃より子どもに関わった活動をしている方に依頼、体験活動の講師には主として湖南市ボランティアセンターに登録の方に依頼した。
- ・自主学習の準備ができない児童のために、適当なプリント類を準備しておいた。



【夏休みの宿題に取り組む】

■ 事業の成果

会場では子どもたち同志で教え合う姿が見られたり、パン作り教室では高学年が低学年の面倒をみるなど、異年齢の関わりを持つことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・事前の予想を超える参加申込があり、推進員の数に不足がないか心配があった。特にパン作り教室には参加希望が殺到したため、急きょ1日2クールに増やし、会場と時間を個別に指定して連絡するなど、事前準備に時間がかかった。
- ・夏休みの宿題をと想定していたので、夏季休業に入ってしまうので、高学年には水泳教室と日時が重なってしまう。そこで高学年にも参加できるように、お盆明けにも4日間をあてたが、前半が良い人、後半が良い人それぞれから見直しを求められた。



【パン作り教室】

■ その他

事後アンケートの声から

- ・体験タイムが良かった。
- ・友達と一緒になので宿題がはかどった。
- ・家で留守番をしているので、教室があつて良かった。(以上、保護者)
- ・おかしづくり、手品がしたい。
- ・友達ができた。
- ・来年も行きたい(以上、参加児童)
- ・学校や家庭がかかえているいろんな問題がある事に驚きました。子どもたちはとっても元気なのでこの「力」を上手にひきだせればなと思いました。
- ・集団の中に入りにくい子どもの参加もあり、その対応については事前に検討する必要もあるように思います。
- ・送迎の親とも接点を持てたのは良い機会になりました。(以上、推進員)

■ 学びの場・体験の場の提供～ひがしっこ教室～

■ 湖南市	
■ 活動名	ひがしっこ教室・ひがしっこパン教室 あつまれ!! ひがしっこ (体制構築型)
年間開催日数	10 日

コーディネーター数	1 人
土曜教育推進員数	7 人
子どもの平均参加人数	16 人

■ 活動の概要

長期休業中の学習支援と場を提供する「ひがしっこ教室」は、昨年度に引き続き夏休みを使って、地域の児童館に協力のもと実施した。今年度は三雲まちづくりセンターの協力で、児童館の休館日にも開催することができた。

新たに、まちづくり協議会との連携で「ひがしっこ パン教室」も三雲まちづくりセンター・調理室を使用して開催した。保護者の同意により申し込みのあった児童の参加で活動を実施している。また、三雲東青少年育成学区民会議との連携で12月23日に、「あつまれ!!ひがしっこ」というコラボイベントを企画している。地域の方の協力を得て、一緒に経験することで学習以外の面においても地域の活性化につながるよう活動している。

■ 特徴的な活動内容

「ひがしっこ教室」は、児童館の和室を利用。長机の準備・片付け・掃除機を使っての掃除など、学習以外の作業も全員で協力して行うため、異学年の交流も図れている。毎回、自分で学習のめあてを設定し、帰る前に全員の前でめあてと反省を発表することで、自主的な学びの場作りになっている。

「ひがしっこ パン教室」は、食べるものを自分で作る楽しさを味わい、何を使って、どのように作るのかに関心を持ち、いつもごはんを作ってもらっていることへ感謝することができた。最後は、自分で作ったパンをおいしく食べることで満足できる楽しい活動となった。材料費は参加費で賄った。

「あつまれ!!ひがしっこ」は防災時に役立つ経験となるよう、ポリ袋を使ってご飯を炊く体験と、小学校のスクールガードが一番お世話になっている世代の方と仲良くなれるように校庭でグラウンドゴルフの体験を企画している。



【ひがしっこ パン教室】

■ 実施に当たっての工夫

- ・学習の推進員にはじっくり根気よく子どもと付き合える方をお願いしている。ゆっくりでも「自分でできた」という気持ちを実感し、「明日も行くのが楽しみな場」となるよう心がけた。
- ・パン教室は、参加申込みが殺到したため、1日に2回、開催できるように交渉し、変更して実施した。講師の方の協力と、参加者の時間変更の協力により、申し込んだ全員が参加できる活動となった。開催までに余裕をもって締切を設定していたことで、変更の交渉・時間変更の協力についての案内配布・調整などに時間をとることができた。
- ・子どもと一緒に活動できる団体に土曜事業の活動を説明し、協力をお願いした。
- ・自分で目標設定をすることで、やらされているという感覚から、自分でやるという気持ちで取り組めるようにした。
- ・開催は夏休みが始まってすぐに連続して参加できる日程にした。(持ってくることができる宿題が多い期間で設定。)

■ 事業の成果

「ひがしっこ教室」参加者・保護者の声

- ・いつも家では、集中できず、宿題がはかどらず、全然できなかったが、ひがしっこ教室で勉強すると集中できて、どんどん宿題を終わらせられたので嬉しかったです。
- ・2時間も家でしようと思わないけれど、「ひがしっこ教室」に来て、家でするより進んだのでよかったです。
- ・家でするより、集中できてよかったと思いました。(保護者)
- ・夏休みの宿題がずいぶんできたようで、よかったです。お世話してくださった方々、ありがとうございました。

※静かとは言えない異年齢の集団の中でも目標を持って取り組むことで成果が出ているということに子どもの成長を感じる。

子ども同士が集中して取り組む姿がお互いの良い見本になっているかもしれない。

「ひがしっこ パン教室」参加者・保護者の声

- ・自分でパンが作ることができて良かったです。・焼きたてのパンはホカホカでとてもおいしかったです。
- ・お菓子作りやパン教室をまた、やってほしい。

※作る、食べるという活動は本当に子どもが生き生きする活動なんだと実感した。全体のバランスを考えながら、楽しめる活動も取り入れていきたい。

■ 事業実施上の課題

- ・開催日程と推進員の予定の調整に苦労した。次年度は学年を決めて日程を組むなど工夫したい。年々、謝礼が減っていくのが心苦しい。
- ・卒業生など学生の協力者がまだいないので、発掘できるよう声掛けを続けていきたい。

■ 土曜の学びを自信のもとに ～一人ひとりの課題に寄り添って～

■ 湖南市	
■ 活動名	岩根小土曜教室 （体制構築型）
年間開催日数	25日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	15人
子どもの平均参加人数	5人

■ 活動の概要

本校の学校運営協議会は「21世紀の岩根の子どもを育てる推進委員会」「ボランティア推進委員会」「岩根の子どもの安全と安心を見守る推進委員会」の3組織を中心に活動している。その中の「ボランティア推進委員会」においては、子どもたちの学習や活動を支えることをねらいとして、クラブ活動の指導、放課後教室の運営、学校図書館支援（登録・整備・読み聞かせ等）、1年清掃ボランティアなど、様々な活動や支援を展開しているが、「土曜教室」もその一環である。

「土曜教室」の目的は授業以外の場で子どもたちの学習を支援することであり、本校の場合、「気になっていても、なかなか仕事等の関係で子どもの学習を見てやれない、学校の休日でも家にいるのは子どもだけなので、なかなか家庭学習の習慣を身につけることができない」3・4年生を対象に実施している（今年度は例外的に5年生1名の参加を認めている）。また、指導にあたっているのは、学区内に居住する教員OBや学生ボランティアを中心に、「岩根の子どもたちの力になりたい」という熱い思いを持ってくださっている方々である。

*今年度の「土曜教室」参加者は、当初7名でスタートしたが、転出などで12月現在は5名で進めている。

■ 特徴的な活動内容

当該学年の内容だけでなく、子ども一人ひとりのつまずきによっては1～2学年前から学習をスタートし、しだいに積み上げていくよう工夫している。その内容は国語や算数の基礎的な学習が主で、音読練習を課して、期末には音読発表の機会を設けている。

- *1日の流れ
- 9:20までに、まちづくりセンターに「登校」する。
 - 9:30～9:50 はじまりの会（あいさつ。アイスブレイキング、頭の体操、など）
 - 9:50～10:30 1時間目（教科は、子どもと指導者が相談して決める）
 - 10:30～10:40 休憩（「ことわざカルタ」のようなカードゲームを楽しむ）
 - 10:40～11:20 2時間目（1時間目は異なる教科。国語を学習した子は算数、算数の子は国語）
 - 11:20～11:30 あとかたづけ、あいさつ
 - 11:20～12:00 指導者による打ち合わせ（今回の学習の様子を報告し、次回の計画を練る）

■ 実施に当たっての工夫

教室の運営を担う指導者（ボランティア）が、対象となる子ども一人ひとりの学習状況を細かく把握し、1回ごとに「この子の今日の学習は……」と、プログラムを立てている。そのうえで、指導者1名が子ども1名について指導するという体制を取り、わからないところ、困っているところを克服できるように支援している。それだけに、事後の「打ち合わせ」の時間を大切に、単なる情報交換にとどまらず、どのように支援していくことが有効かをそれぞれの視点から意見を述べ合う時間を持っている。

■ 事業の成果

学校の授業に向かう気持ちが参加する以前とは異なり、ずいぶん前向きな子どもたちの姿勢が感じられる。これは、土曜教室で「できた」「わかった」を実感した成果であり、子どもたちが自信を持って授業に臨むようになったということである。

現在は3年生も含めて「ごんぎつね」の音読練習をしているが、ちょっとしたアドバイスで子どもの読みがぐっと変わってくることもしばしばで、それが賞賛の対象となって、自信につながる。このような繰り返しを積み重ねることで成果が生まれる。

教員をめざす学生指導者自身にも、指導の楽しさと難しさを体感するよい機会となっている。

■ 事業実施上の課題

家庭学習との連携（学習の定着）をどう図るか。土曜教室に通っていない子どもの学力保障をどうするか。



【できるかな？ まずは、頭の体操から】



【一人ひとりの課題を一人ひとりの指導者が】

■ 学べる場所は学校だけじゃない。地域で学ぶ子どもたち。

■ 湖南省	
■ 活動名	菩提寺学区 土曜日教室 (体制構築型)
年間開催日数	10日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	5人
子どもの平均参加人数	22人

■ 活動の概要

まちづくり協議会を主軸に、兄弟校でもある菩提寺北小学校と合同で実施した。活動場所もまちづくりセンターに移し、子どもたちの活動を地域にも知ってもらう機会とした。

■ 特徴的な活動内容

2校の交流活動として夏の勉強会だけではなく、地元の歴史や郷土の様子を共に学ぶ活動も実施した。

1. 公園整備と自然体験学習 (郷土を知る)
2. 夏休み勉強会
3. 夏休み勉強会
4. 夏休み勉強会 (キッズアート教室)
5. 歴史散策路案内板制作 (郷土を知る)
6. ペットボトルロケット制作 (理科)
7. 年賀状を書こう (図工)
8. 菩提寺山防災ハイキング (郷土を知る)
9. 書き初め (書写)
10. 案内板設置 (郷土を知る)

■ 実施に当たっての工夫

地域のボランティアを募るだけでなく、地元の中学生が参加してくれ大きな力になっている。
限られた予算では難しい活動も、まちづくり協議会の基金申請で予算が取れ実施することができた。

■ 事業の成果

コーディネーターの立場では、2校合同で行うことにより、講師やボランティアを募る作業が単独で行うよりスムーズにできた。
お互いにサポートし合い活動を補い合うことができた。
子どもたちも他校との交流をしながら、勉強はもちろん、いろいろな活動をしながら郷土の事を知る機会を持つことができた。
学校での活動ではなく、地域 (まちづくりセンター) で活動することにより、地域の人たちが事業を少しでも知るきっかけになったと思う。

■ 事業実施上の課題

2校合同の良さもあるが、まちづくりセンターを拠点としての活動は、校区外になる子どもたちにとっては会場までの移動が大変で、参加しづらいと言う声があった。
活動と活動の間隔が短いと準備から実施までの作業が重なることがあるので、活動計画を考えるときに気をつけないといけないと感じた。(但し、夏休みの勉強会は活動日が近くても同時に募ることができる。)

■ その他

まちづくり協議会を中心に行うことで、今年度は予算も十分にあったけれど、毎年あるとは限らない。活動内容を十分に考えて支障のないように行わなければいけないと思う。地元の中学校との連携をこれからもうまくっていかれたらと思う。



【 夏休み勉強会 】



【 年賀状作り 】

■ ～地域の子どもが繋がる～菩提寺学区土曜日事業 菩提寺小学校・菩提寺北小学校・（甲西北中学校）

■ 湖南市	
■ 活動名	菩提寺学区 土曜日事業 （体制構築型）
年間開催日数	10日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	5人
子どもの平均参加人数	25人

■ 活動の概要

菩提寺学区には、菩提寺小学校と菩提寺北小学校の2校がある。その2校で協力して土曜日事業をすることとし、菩提寺まちづくり協議会にその支援をお願いした。また、今年度より新しくできた菩提寺まちづくりセンターに活動場所を移し、両校の子どもたちが一緒に活動する機会とした。

■ 特徴的な活動内容

活動は6月から翌年2月までに10回にわたって行った。

- 第1回 6月28日(土) 公園整備と自然体験学習（郷土を知る）
- 第2回 7月28日(火) わくわく学習教室（宿題）
- 第3回 8月7日(金) 夏休み絵画教室（図工）
- 第4回 8月25日(火) アートキッズワーク 壁画制作（図工）
- 第5回 9月26日(土) 歴史散策路案内板制作（郷土を知る）
- 第6回 10月17日(土) ペットボトル飛行機教室（理科）
- 第7回 11月28日(土) 年賀状作り教室（図工）
- 第8回 12月12日(土) 菩提寺山防災ハイキング（郷土を知る）
- 第9回 1月5日(火) 書きぞめ 書道教室（書写）
- 第10回 2月13日(土) 案内板設置（郷土を知る）

■ 実施に当たっての工夫

すべての活動で応援スタッフとして中学生のボランティアを中学校コーディネーターに要請した。その結果、中学生が参加してくれ大きな力となり、アート関係の時には美術部の生徒というようにテーマに即した学生が来てくれるように配慮もあり最大限中学生の良さも引き出すこともできたと感じる。

また、限られた予算では難しい活動も、財源を生み出すために菩提寺まちづくり協議会が「子どもゆめ基金」に申請し、補助金を活用し、充実した活動を実施することができた。

外部講師も依頼ができ、少しではあるがスタッフとして動いてくださった方への謝礼金も出せた。



【アートキッズワーク 壁画制作】



【ペットボトルロケット教室】

■ 事業の成果

菩提寺まちづくり協議会の支援で菩提寺学区の小学校2校で始めた土曜日事業だが、甲西北中学校の協力も得て、地域の小小連携から小中連携へと、活動が広がってきた。

また、今年度はすべての活動を2校で行ったので、講師やボランティアを募る作業が単独で行うよりスムーズにでき、お互いに活動を相互補完することができた。

さらに、土曜日や、学校の長期休業時に、子どもたちに有意義な時間と場所を与えることができ、楽しみながら学習意欲を引き出させ、満足感を味わう効果も出たと感じている。

■ 事業実施上の課題

今年度は、すべて、菩提寺まちづくりセンターで開催し、良い面も多くあった。しかし、菩提寺北小学校からは、学区外になり、少し遠いので、今まで単独で学校で行っていた時に比べると、参加者がかなり減ってしまったことが残念である。このあたり、重大な課題であり土曜日事業の2校でやる意義と参加者が望む開催場所とを再考しなければならないと思う。

■ その他

菩提寺まちづくり協議会ホームページ <https://www.bodaiji.org/>

『地域の力で下田っ子を育てよう!!』 ～ しょう サマースクール 2015～

■ 湖南市	
■ 活動名	しょう サマースクール 2015 (体制構築型)
年間開催日数	10日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	23人

■ 活動の概要

『しょうサマースクール』は今年度で3度目となり過去2度の反省をうけて、『夏休みの宿題会』ではなく子どもたちが学びたいことを学べるものにしようということになった。そこで、日枝中学校の協力を得て、「中学生による先生ボランティアが、自分たちの得意とする事柄を小学生に教え、わからないところは一緒に調べ学習をする」という会にした。

■ 特徴的な活動内容

『しょう サマースクール』では、日枝中学校に協力をあおぎ、15名の生徒に先生ボランティア（以下、中学生先生）として、4名の生徒に運営ボランティアとして参加してもらった。他にも、参加児童が安全に通えるように地域の方に立ち番をしていただく、中学生先生の補助など、様々な方にかかわっていただいた。

《実施日時》平成27年8月18日（火）～20日（木） 計3日間

《実施場所》下田小学校 会議室・ふれあいルーム・図書室 など各所

《学習内容》 各中学生先生のテーマ

1	滋賀県にゆかりのある歴史上の人物	6	料理の基本をマスターしよう	11	マンガやアニメを科学で考えてみよう
2	漢字のいろいろ	7	似顔絵の描き方をマスターしよう	12	自分だけのあみものポーチを作ろう
3	各地のお城の歴史	8	くらしのなかにある理科	13	いろいろな石の結晶を調べよう
4	フェルトで描く「はらぺこあおむし」	9	音楽と仲良くなろう	14	世界の神話を調べよう
5	百人一首の攻略法	10	野球をもっと調べてみよう		

■ 実施に当たっての工夫

- ① 今回、サマースクールの運営の多くを中学生に任せた。学習の間は運営ボランティアの手があくので、各グループを見て回り、気が付いたことをレポートに書いてもらった。
- ② 中学生先生には、自分の得意な事柄を小学生に教えるということで、日枝中学校の図書協力員の方の協力のもと夏休み前から事前準備として、本を使っの調べ学習をしてもらった。
- ③ 各グループ、中学生先生1～2人に対して小学生は2人までと、小学生参加者の定員を設け、学習に集中できるようにした。
- ④ 小学生の参加募集の際に、各中学生先生のテーマを提示し、「面白そう」や「やってみたい」と思ったテーマに参加申し込みできるようにした。
- ⑤ 教室を移動するときには地域のボランティアに付き添いをしてもらい、危険がないように見守りをしてもらった。
- ⑥ 最終日には各グループで学習したことを発表してもらい、参加者みんながどんなことを学んだかを共有できるようにした。



【学習の様子】

■ 事業の成果

- ① 地域の中学生に学習指導をってもらうことで、交流の機会が生まれ、地域の中学校に興味を持つようになった。
- ② 「中学生先生にはなれないけれど、参加したい」という中学生に運営ボランティアとして活躍してもらうことができた。
- ③ 運営ボランティアにレポートを書いてもらったことで、運営ボランティア自身も各グループの学習について興味を持つことができ、中学生先生はそのレポートの内容を聞き、翌日の学習に活かすことができた。
- ④ 小さなグループでの学習にすることで小学生も質問をしやすくなり、集中して学習を進めることができた。
- ⑤ 小学生の参加募集の際にテーマごとに募集したことで、小学生、中学生ともに興味のある事柄について学習を進めることができ、『調べ学習』の楽しさを実感できたのではないと思う。
- ⑥ 学習したことを発表する時間を設けたことで、そのために学習したことをまとめることができた。
- ⑦ 発表をしたことで、他のグループが学習したことを知ることができ、興味を持つことができた。

■ 事業実施上の課題

- ① 開始前にミーティングを行うようにしたが、時間を多くとることができなかつたため、細かい打ち合わせができなかつた。
- ② 小学生の募集時にテーマによっては定員を超えることがあり、抽選になってしまった一方で定員割れになったテーマもあり、抽選でもれた小学生に定員割れのところに回ってもらうなど、希望に添えないことがあった。
- ③ 中学生先生の事前準備が大変だったので、もう少し負担が軽減できるように考えたい。
- ④ 今回は運営ボランティアに受付業務やレポートの記入などを任せたが、今後は司会進行なども任せてみたい。



【運営ボランティアによる受付】

■ 土曜事業 ～みとっこ宿題応援隊☆2015 の取組～

■ 湖南市	
■ 活動名	みとっこ宿題応援隊（体制構築型）
年間開催日数	10日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	18人
子どもの平均参加人数	20人

■ 活動の概要

日々の学習を深め、より充実したものにするため夏休み、冬休みを利用した宿題応援隊の活動を学校と家庭、地域が一緒に取り組んでいる。子どもの課題を共有し課題解決に向けた活動で、小中連携として本校出身の中学生、中学校のコーディネーター、まちづくり協議会と協力しサマースクール、絵画教室、書道教室のほか、外国にルーツをもつ子どもたちの勉強会を行っている。

■ 特徴的な活動内容

地域の中学生と小学生との交流を図るため、中学生に先生役をお願いし夏休みの宿題、絵画の宿題を教えてもらった。冬休みには、中学生に書道教室の先生として参加してもらい、書き初めの宿題に取り組むことができた。また水戸小学校には外国にルーツをもつ子どもが現在75人在籍している。この子どもたちを対象にした勉強会を夏休みの4日間、冬休みの3日間に実施した。

■ 実施に当たっての工夫

サマースクールでは、地域の学習センターを会場に2日間、9時から12時まで実施した。はじめの1時間はドリルなどの宿題を、低学年・高学年と二つに部屋を分けて行い、先生役の中学生にもスムーズに教えてもらえるよう担当する学年の希望を聞いた。

休憩のあとには一つの部屋に集合し、絵画の宿題に取り組んだ。当日受付で何の絵を書くか、また1日だけの参加か2日間の参加かを聞きとり、先生役の中学生に伝えることで大体のグループに分けて会場をセッティングしてもらったり、進度に合わせて教えてもらうことができた。冬休みの書道教室では、書道の学習がある3年生から6年生の参加としている。同じ中学校区の下田小学校の子どもたちとの交流や開催場所である地域の中学校へ行くことも参加する子どもたちには楽しみの一つとなっている。

外国にルーツをもつ子どもたちの勉強会には、土曜教育推進員が9時から11時の2時間、国語と算数を中心に教えてくれていた。毎日30名ほどの参加があったが、個々の学習の進度が異なるため5グループに分かれて取り組んだ。一人ひとりに寄り添いながら丁寧に言葉がけをしてくれていた。

■ 事業の成果

先生とは違う大人や中学生に教えてもらうことで小学生が「できる、できない」ではなく「やってみる、考える」→「わかった」ことを体感できたように思える。一緒にやろうというスタンスが小学生にとって安心できたのではないかなと思う。

絵画の宿題、書き初めは家庭で保護者が教えるものもなかなか大変なようで、短い時間の中で完成できたことに子どもだけでなく保護者からも喜ぶ声を聞くことができた。中学生も、小学生に教える前に地域の講師の方からレクチャーを受けていて、本番で先生として活躍できたことで自信を持っていたし、子どもたちは夏休みや冬休み中に友達と会えることや中学生のお兄さん、お姉さんと交流できることを楽しみにしていた。まちづくり協議会の方々もそんな小学生、中学生のそれぞれの頑張る姿を見て、「いいことやなあ」とコーディネーターに言葉をかけてくださった。

■ 事業実施上の課題

小中連携では、それぞれの事業に対する思い、目的、役割分担など、密な打ち合わせやコミュニケーションの時間をつくるのが難しかった。良いものを長く続けるためには事業のスリム化も必要で、そのため今年度は内容を一部見直すこととなった。

外国にルーツをもつ子どもたちの勉強会では、やはり「言葉の壁」を感じることもあった。言葉を線ですぐ、何秒で計算できるかカウントする、などゲーム感覚で学べるものは喜んで取り組んでいたが漢字の書き取り、文章問題などは時間がかかっていた。

初日にやってみて勉強に集中できる時間が学校の授業時間（45分）だったので2日目からはその時間に設定し、休憩は体育館で体を動かしたり図書室で本を読めるようにして発散できたのはよいが、その後集中しにくい子どももいた。

事前に先生から子どもたちの学習進度や日本語の理解についての情報を土曜教育推進員に伝えることができていたら、より学習を深めることができたのではないかなと思う。



【外国にルーツをもつ子どもたちの勉強会】



【サマースクール☆小・中学生と地域の方と一緒に！】

むずかしいけどがんばるわ！

宿題できた！
中学生のお兄さんお姉さん、ありがとう♪

めっちゃ楽しかった～！！

■ 教え学びあう学習支援（小中高連携）

■ 湖南省	
■ 活動名	甲西北中学学習教室（体制構築型）
年間開催日数	11日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	5人
子どもの平均参加人数	20人

■ 活動の概要

今年度も、地域大学生による定期テスト前の補充学習および、地域の高校生による学習支援を夏休みに集中させて実施した。1、2年生を対象とした地域の高校生による学習支援は計3回で、1回の学習会への参加生徒数は平均6名。高校生は1回あたり平均5名で、多い時には10名の高校生が学習支援に来校してくれた。高校生による学習支援では、夏休みの宿題や課題を持ち寄り学習会を実施することができた。

定期テスト前に実施した大学生による学習会では、対象生徒を1～3年として計8回実施した。多いときで50名近い生徒が参加し、大学生の参加数は1回の学習会につき平均4名だった。

■ 特徴的な活動内容

高校生による学習支援については、本校出身者（卒業生）が学習支援に来てくれた。しかも、地元の高等学校とあって自分自身の進路を身近なものとして捉えることができた。一方、地域の大学生による学習支援については、より専門的な支援を受ける機会が確保でき、生徒たちの学習意欲にもつながった。

■ 実施に当たっての工夫

対象生徒の参加数を増やすために各部活動単位での参加も認め、より多くの生徒が参加できる環境を整備した。また、支援をいただく高校生や大学生にも男女のバランスを考慮してもらい、参加生徒数の確保に努めた。

学習内容については、高校生および大学生に事前に対象生徒の学年とテスト範囲を伝え、お互いが良い準備をした上で実施できるように配慮した。

学習会の場所は、基本的には対象学年の教室を使用した。参加人数によっては1カ所で実施したり、少人数で実施したりと弾力的な学習形態を取り入れることによって、より効果的、効率的な学習会の実施につなげることができた。

■ 事業の成果

普段、家では一人で学習することが定着していない生徒も、お互いに声をかけあって参加することで継続的な参加が実現できた。また、参加生徒数を増やすために、部活動単位での参加についても可能とした結果、顧問の先生も巻き込みながら学習会を実施することができた。このことは、学校内において横のつながりが増し、他の部活動への波及効果を得ることもつながった。その結果、限られた時間の中で、効果的な学習会を実施することができた。

■ 事業実施上の課題

- ・特に大学生の学校生活とのバランスや他のアルバイトとの関係で時間的に難しいケースもあり、参加生徒数に見合った推進員の確保は容易ではなかった。
- ・推進員が大学生ということもあり、生徒のニーズにどこまで応じた学習支援ができていたかという今後の検討課題でもある。
- ・生徒が持参する学習内容への支援もさることながら、定期テストに向けた本来の学習支援に至っていない部分もあり、学習内容そのものの事前研修会が開催できると、さらに質の高い学習会が期待できると思う。また、そのことが生徒の参加を増やす糸口になればと思う。

■ その他

地域の大学生や本校出身の地元高校生が学習支援をしてくれる中で、教師と生徒という関係で学習を進めていくのとは違い、より親近感をもって学習会を進めることができた。その結果、教えてもらうことを通して、教える側に立ってみるというところにもつながった。



【地元大学生による定期テスト前の学習支援の様子です。】

■ 教え学びあうことでレベルアップする子どもたち

■ 湖南市	
■ 活動名	日枝中学校土曜日事業（体制構築型）
年間開催日数	12日

コーディネーター数	2人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	30人

■ 活動の概要

校区内の小学校と連携し小学生の夏学習のサポートを行う。中学生が教える立場に立つことで自身の学ぶ力を伸ばす。それぞれの小学校（地域）へ活動に行く生徒達向けに校内で学習会を実施。（美術室・図書室を利用）開催日には地域の方に活動をサポート頂き、地域の教育に対する関心を高める。

■ 特徴的な活動内容

1. 水戸夏休み☆宿題応援隊参加

小学生の夏休みの学習支援に加え、絵の宿題サポートを行う活動。

小学生の絵の宿題をサポートする試みに対して、地域で絵画教室をされている先生をお招きし、中学生から小学生に向けての声掛けの仕方やテクニックをレクチャーして頂いた。実際に絵を描きながら直接指導頂くという形の事前勉強会を実施。

活動当日は地域の方と共にドリルやプリント学習のサポートを会議室で行った後、大ホールに移動して絵のサポート活動を行った。

8月3日、4日に開催。市民学習交流センターを活用。活動時間は9時～12時。



【水戸夏休み☆宿題応援隊の様子】

2. しもしょうサマースクール参加

小学生の夏学習のサポート企画。参加中学生の得意分野の知識を教える教室を開催。中学生も自分の教えたい分野について図書室を利用して事前学習し、インターネットに頼らない、図書を使った「調べ学習」を実践。小学生に教える時の段取りや必要な道具など、様々な事を生徒自身で考えて取り組んだ。

活動当日は地域の方のサポートも頂き、各分野の調べ学習に取り組んだ。最終日には学習した内容の成果報告を行った。

8月18日、19日、20日に開催。下田小学校を使用。活動時間は9時～12時。



【しもしょうサマースクールの様子】

■ 実施に当たっての工夫

1. 水戸夏休み☆宿題応援についてはドリル学習と絵のサポートという2つの活動を同日に行う為、それぞれの活動場所を分けて活動出来る地域の市民学習交流センターを活用。小学生2人に中学生1人がつき丁寧にサポート出来るように活動を行った。絵を描く為の資料図書も用意。地域自治体組織との連携も行い活動がスムーズに行えるようサポートをして頂いた。

2. しもしょうサマースクールについては事前学習において多くの資料が必要だった為、日枝中学校図書室の図書だけでなく、他校図書室や甲西図書館の図書をお借りし調べ学習に活用した。小学生に向けた学習の為「目に見える」「手で触れる」資料や実験道具などを使って分かりやすい学習になるように考え取り組みを行った。

■ 事業の成果

どちらの活動においても、最初は受け身だった中学生が活動を通して自発的に考え行動に移せる場面が増えていったことに今の活動の成果を感じた。普段の生活では教えられる側に立つことが多い中学生達だが、自分が教える側に立つことで様々な事を考えて取り組まなければならない状況が生じ、自分の持つ力を精一杯に使う努力が出来た。最終日には一段と成長した笑顔で活動を終えられた事も生徒にとりとても貴重な体験になったと感じた。今回は支援学級の生徒の参加もあり、事前準備では本人も自信を失ったり動揺する場面が見られたものの3日間の活動を頑張って乗り切った。生徒担任からは「2学期になり、いきいきとした活動が出来ている」との声が聞かれ、この取り組みの意義を感じた。

■ 事業実施上の課題

今回の活動は夏休み期間中に行ったが、部活動や塾などの事情により全日参加できない生徒もおり、活動日の設定に難しさを感じた。実際に活動を行う為の準備をスタートさせて参加小中学生の募集をかける時点では生徒側も夏休みの予定が立っていない為に途中で参加出来なくなったり、事前学習の準備が充分に出来なかった生徒もいた。事前学習会については予備日に追加で学習会を開くなどの対策をとったが、参加生徒の予定と学校の施設利用可能時間帯の調節などの問題もあった。

■ 東近江市における土曜日の教育支援の取組

(体制構築型)

■めざす姿

蒲生マックスクラブでは、M（みる）A（あじわう）K（きく）K（かぐ）S（さわる）の五感を使って子どもたちが最大限〔MAX=MAKKKS〕の力を導き出し、豊かな心や生きる力を育むことを目的とした活動を実施している。

■本年度の活動

○蒲生地区地域教育協議会により蒲生コミュニティセンターを拠点として活動を展開している。

- ・ **そろばんクラブ**：そろばんを基礎から学びます。
 - ・ **囲碁・将棋クラブ**：囲碁や将棋に親しみます。初心者大歓迎！基本の方から学習します。
3月にはトーナメント大会を行います。
 - ・ **ITキッズクラブ**：パソコンをみんなで楽しみながら学びます。
 - ・ **陶芸クラブ**：粘土で自分の好きな作品を作ったり、絵付けをしたりします。
 - ・ **KIDS FLOWER**：生花・ブリザードフラワー・押し花等を使って、母の日やクリスマスなどのイベントのアレンジメントをします。
 - ・ **蒲生野太鼓わらべ隊**：楽しく太鼓を学び、地域や市内各地のイベントに参加します。
 - ・ **マックスダンス（初級）**：ダンス経験のない小学生を対象とし、基礎的なステップやダンスの練習をします。
 - ・ **マックスダンス（中級）**：応用的なステップや少し難度の高いダンスの練習をします。
 - ・ **マックスダンス（上級）**：経験者を対象にフリースタイルダンスです。
- （蒲生マックスクラブ会員募集ちらしより抜粋）

■本年度の成果

- ・蒲生マックスクラブは従来から休日の児童・生徒の教育活動支援を行ってきた。蒲生地区において、長年継続的に活動してきたことで、地域が主体となって取り組む活動として根付き、毎年多くの児童生徒が参加する事業となっている。
- ・地域のイベントにおいて、子どもたちの学びの成果を発表する場を設け、広く地域の方々に当事業の目的や内容、成果を発信できた。これらのことを通じて、子どもの体験活動や居場所作りの他に、地域教育の活性化にも貢献できたと考える。

■今後の課題

- ・今後も下校後や休日等に子どもが自分で行ける身近な居場所や学びの場としてコミュニティセンター等を利用し、さらに活動を充実させるとともに放課後や休日に必ずしも有意義に過ごせていない子どもたちも巻き込んだ新たな視点に立った活動も考えていきたい。

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ そろばんクラブ（体制構築型）	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	8人

■ 活動の概要

- ・そろばんの基本的な使い方を学習する。
- ・そろばんを使って計算能力の向上を図り、算数の仕組みを理解する。
- ・そろばんの技能と算数の仕組みを理解することを通して、子どもの学ぶ意欲を高める。

■ 特徴的な活動内容

- ・コミュニティセンターを利用してそろばん教室を実施している。
- ・クラブ員によって理解度が違うので個々に対応した学習を行っている。
- ・「できる」「わかる」ことを大切に、子どもたちの学習に対する意欲全般を高めるようにしている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・気分転換を図るため、途中でゲームなどを取り入れ、子どもたちの意欲が持続するように工夫している。
- ・お茶の時間等の休憩時間もつくり、クラブの仲間づくりにも努めている。
- ・そろばんの学習については、子どもたちが集中して取り組める学習の展開にも工夫している。
- ・子どもたちにとって身近なところにあるコミュニティセンターを利用することで、地域の子どもたちが教室に参加しやすくしている。

■ 事業の成果

- ・毎年、継続して教室に参加する子がいる。
- ・そろばんの技能が高まり、算数の理解が深まるほど、学習に集中して取り組む子どもたちの様子が見られたことから学習に対する意欲の高まりが感じられた。
- ・初めてそろばんを学習した子どもも継続して1～2年続けると、掛け算や割り算も出来るようになり、よりそろばんに対する興味が高まった。

■ 事業実施上の課題

- ・月1回の活動なので、前回の内容を忘れる子どもがいる。
- ・自宅でおさらいをするように言っているが、徹底させるのは難しい。
- ・集中を切らさないようにするのが難しい。個人によって集中の度合いが様々であり、その対応の手立ての工夫が必要である。

■ その他

- ・蒲生マックスクラブ発表会では、そろばん体験教室を開催し、活動の内容を広く地域の子どもたちにPRした。

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	蒲生マックスクラブ
	蒲生野太鼓わらべ組（体制構築型）
年間開催日数	36日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	17人

■ 活動の概要

- ・ 基本的な和太鼓の演奏方法を学習する。
- ・ 和太鼓文化に触れながら、演奏技術の向上と集団で演奏する楽しさを学ぶ。
- ・ 地域の行事やイベント等に参加し発表している。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 通常の練習は地域の蒲生コミュニティセンターにおいて行っている。
- ・ マックスクラブ発表会の他に、地域での様々なイベントや行事において、積極的に演奏活動を行っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 習熟度別に、初心者向きと中級者向きとに分かれて練習し、子どもたちの意欲が途切れないように工夫している。
- ・ 積極的に発表の機会を設け、クラブ員として活動に対する意欲が高まるようにしている。
- ・ 先輩が後輩を指導する等の縦のつながりも大切にしながら活動している。

■ 事業の成果

- ・ 年度初め（5月）から始めた子どもらが3月の発表会では一人でたたけるようになった。
- ・ 当教室和太鼓は継続的に取り組む子どもがたいへん多い。
- ・ マックスクラブを卒業しても、上部団体の「鈴温泉太鼓」に加入し、和太鼓を続けるクラブ員が多い。後輩（わらべ組）の指導にも積極的に協力してくれるので、小中学生と青少年層とのつながりができている。

■ 事業実施上の課題

- ・ 新規の指導者の育成は必要である。
- ・ 和太鼓は、数年続けないと一人前にならないので、継続的に活動する子どもが多い。そのため、欠員がなく新規の子どもたちの募集が少なくなり、希望者の意向に添えないことがある。

■ その他



【 和太鼓の練習風景 】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	蒲生マックスクラブ
	キッズダンス（初級）（体制構築型）
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	14人

■ 活動の概要

- ・基礎的なステップを中心にダンスの練習を行っている。
- ・積極的に地区や市の大会に出場し活動している。
- ・地域の行事やイベントに参加し発表している。

■ 特徴的な活動内容

- ・キッズダンスでは、初級・中級・上級のクラスを設けており、子どものレベルに合った教室が選択できるように工夫している。
- ・初めて取り組む児童も多く、楽しく活動することに重点を置いている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・初級クラスにおいては、練習でも発表でも常に楽しい雰囲気を大切にしている。楽しい雰囲気をつくることを通じて、初心者の子どもたちの意欲が継続し、高まるように工夫している。
- ・地区や市の大会にも出場することで、子どもたちの発表に対する意欲が高まるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけ、子どもたちが活動の見通しが持ちやすいように工夫している。

■ 事業の成果

- ・子どもたちは意欲的に教室に参加している。年度の途中から加入した子も発表会に参加できるほど上達した。
- ・例年、次のレベルの教室に参加する子が多く、今まで継続的に行われてきた教室である。
- ・市内でも十分に周知され、さまざまな地域の行事などから多くの出演依頼がある。

■ 事業実施上の課題

- ・練習時間が短いために全体の動きを合わせるのが難しいことがある。

■ その他



【 練習の風景 】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ	
キッズダンス（中級）（体制構築型）	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	10人

■ 活動の概要

- ・応用的なステップを中心に、少し難度の高いダンスの練習を行っている。
- ・積極的に地区や市の大会に出場している。
- ・地域の行事やイベントを盛り上げるため、積極的に参加している。

■ 特徴的な活動内容

- ・地区や市の大会、発表会等への出場や参加に向けて、常に目標を持って練習している。
- ・初級クラスから継続的に取り組む子どもたちが、より高度なダンス技能の習得に目的をおいて取り組んでいる。

■ 実施に当たっての工夫

- ・中級クラスでは、常に明るく声をかけ合う等チームの輪を高める雰囲気づくりに努め、より高度な演技に意欲的に取り組めるように工夫している。
- ・発表や大会に出場することを通して、子どもたちのステージに対する意欲を高めるとともに、年間の活動についてもメリハリをつけるようにしている。

■ 事業の成果

- ・なにより活動を楽しみにしてくれている。
- ・次第にダンスのレベルが上がるが、子どもたちは、さらに難しい内容を希望し、積極的な取り組みの様子が感じられるようになった。

■ 事業実施上の課題

- ・ダンスの習得には、個人差があり、揃えるのが難しい。
- ・納得がいくまで、子どもたちは演技を揃えたいと求めてくるために時間が足りない。

■ その他



【 練習風景 】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ	
キッズダンス（上級）（体制構築型）	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	1人
子どもの平均参加人数	7人

■ 活動の概要

- ・中級クラスより難度の高いステップを中心にフリースタイルダンスの練習を行っている。
- ・ステージでの発表を活動の中心として、積極的に各大会に出場している。
- ・地域の行事やイベントにも参加し、会場を盛り上げている

■ 特徴的な活動内容

- ・大会に向けて目標を持ちながら練習している。
- ・今年度より上級コースが設けられ、子どもたちの教室の選択枠が増え、より子どもたちの思いや目標に合わせた活動を行っている。
- ・初級、中級とダンス経験を積んだ子どもたちの加入が多く、地区や市の大会等に出場したり、地域のイベントや行事に参加したりすること等、目標が明確であり、それに向けて子どもたちが意欲的に練習を積んでいることが特徴的である。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ダンスの技能もさらに高度となり、その習得のための練習は大変であるが、その困難に負けないようにお互いに明るく声をかける等楽しい雰囲気をつくっていくよう努めている。
- ・発表会や大会に出場する中で、みんなで共通の目標を持ちながら活動するようにしている。目標を持たせ、子どもたちもメリハリを持って練習に取り組めるように工夫している。

■ 事業の成果

- ・今までの積み重ねもあり、練習を重ねるごとに子どもたちは、どんどんレベルアップしていき、より練習に集中する様子が感じられた。
- ・大会出場を重ねることで、子どもたちはより難度の高い技能やステージ発表を希望するようになり、意欲的な取り組みの姿勢が見られた。

■ 事業実施上の課題

- ・子どもたちの思いや目標に応えたいが、ダンスが高度になるほど、その技能の習得にも個人差が出てくるため、ステージ発表をどのレベルで子どもたちに納得させるのか、また、どのような目標設定をするのが適当なのか指導者として難しい。

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	蒲生マックスクラブ
	IT キッズクラブ（体制構築型）
年間開催日数	10日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	2人
子どもの平均参加人数	7人

■ 活動の概要

- ・パソコンの基礎的な操作の習得を目的にするとともに仲間と楽しみながら学習している。
- ・パソコンを使用して名刺や年賀状作りに取り組み、具体的な操作の方法を学習する。

■ 特徴的な活動内容

- ・パソコンを上手に活用するといろんな楽しみ方が出来ることが理解できるように活動している。
- ・パソコンについての学習だけでなく、はがきでブーメランやプロペラをつくり飛ばす等、身近なものを利用して、子どもが興味を持って取り組める体験的な活動も取り入れている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・途中でゲームをしたり、ティータイムをとったりと気分転換を図りながら、子どもたちの集中力が持続するように工夫している。
- ・パソコンの操作だけでなく、ものづくり等の体験的な活動を通じて、クラブ員同士の交流を図り、仲間づくりも大切にしている。
- ・具体的に名刺や年賀状をつくることで、できる喜びや製作の楽しさを味わえるようにしている。
- ・マックスクラブ発表会など地域の行事等で作品を発表し、活動に対する意欲を高めている。

■ 事業の成果

- ・5月より始めた初心者子どもたちも2月にはゆとりを持って操作できるように上達した。
- ・最初はパソコンの操作に戸惑っていた子どもが、回を重ねるごとに操作に慣れ、意欲的にパソコンの操作に取り組む様子が見られるようになった。
- ・名刺や年賀状作りでは、各自熱心に取り組む、それぞれに満足のいく作品ができた。

■ 事業実施上の課題

- ・備え付けのパソコンのバージョンや機器が古く、新しいソフトなどの利用が出来ない。
- ・リラックスタイム等、子どもたちの集中力が途切れないように工夫しているが、集中力を持続させるための他の手立てを考えていく必要である。
- ・パソコン以外にも子どもたちが興味を持って取り組める簡単なものづくり活動等の構築も必要である。

■ その他

- ・蒲生マックスクラブ発表会の子ども体験コーナーでは、パソコン体験やペーパークラフトを行い、活動内容を紹介しPRした。

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	蒲生マックスクラブ
	KIDS FLOWER（体制構築型）
年間開催日数	7日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	5人
子どもの平均参加人数	5人

■ 活動の概要

- ・フラワーアレンジメントの基礎的な作り方やアレンジの方法を習得することとともに、仲間と共通の趣味を楽しむことを目的に開催している。
- ・フラワーアレンジメントを作成する活動を通して、子どもたちの創造性を高めることも目的としている。

■ 特徴的な活動内容

- ・生花・プリザーブドフラワー・押し花等を使って、母の日やクリスマス等のイベントのアレンジメントを中心に作成している。
- ・じっくりと落ち着いてフラワーアレンジメントに取り組むことで、創造することの楽しさを味わうとともに子どもたちの活動に対する持続性も養っている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・作品作りには時間がかかるため、時間内に終わるように、下準備には時間と手間をかけている。
- ・仲間と和気あいあいとフラワーアレンジを楽しみながら活動することを通じて、仲間づくりもできるように工夫している。
- ・お互いの作品を鑑賞し合うとともにその作品を地域の行事などに展示する等して、多くの方に観てもらうことで創作意欲を高めるようにしている。

■ 事業の成果

- ・フラワーアレンジメントに積極的に取り組み、作品作りを楽しむ姿が見られた。
- ・地域で周知され、毎年教室が開催される継続的な活動ができている。
- ・熱心に作成する子どもたちの様子から集中力や持続力を養えたと考える。
- ・フラワーアレンジメントに対するアレンジ力や創造力が身についた。

■ 事業実施上の課題

- ・十分に事前の準備には取り組んでいるが、いざ活動となると子どもたちは一生懸命となるので、決められた時間内に活動を終了するのが難しい。
- ・フラワーアレンジメントは材料費がかかるため、少ない予算の中で充実した活動を行うのは大変である。

■ その他

- ・マックスクラブ発表会等の展示コーナーで作品を発表したり、アレンジフラワー体験教室を実施したりして活動内容を紹介しPRしている。

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名	蒲生マックスクラブ 陶芸クラブ（体制構築型）
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	7人
子どもの平均参加人数	11人

■ 活動の概要

- ・土からの焼き物作りを実施している。
- ・陶芸を通じて、自分の好きな作品を作ったり、絵付けをしたり子どもたちが作品の完成を楽しみ、また、お互いの作品を鑑賞することを通じて交流し、意欲的に取り組む活動を展開している。

■ 特徴的な活動内容

- ・年間で一人が4～5作品を制作する。
- ・マックスクラブ発表会で作品を発表し、自身の学習の成果を披露している。
- ・マックスクラブ発表会では、広く地域の子どもたちに対しても陶芸体験教室を実施している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・作品作りでは、子どもの自主性を尊重、出来るだけ指導者は、直接手を出さないように心がけている。
- ・マックスクラブ発表会等で子どもたちの作品を発表し、次の作品への創作意欲を高められるようにしている。
- ・陶芸体験教室を実施することで、その面白さや楽しさをよりたくさんの子どもたちに体験してもらうよう工夫している。

■ 事業の成果

- ・陶芸に関心のある子が着実に増えてきている。毎年、コンスタントにクラブ員が集まる教室である。
- ・子どもたちは、作陶に積極的に取り組み、作品作りに集中する様子が見られた。
- ・作陶に親しみ、マックスクラブの目指す姿である様々な感覚を高めることができた。
- ・クラブ活動や体験教室を通じて、陶芸に関心を持ってもらうことができた。

■ 事業実施上の課題

- ・制作時間に個人差があり、早く終わった子や遅い子への対応が難しい。
- ・活動は作陶作業が中心であるが、その活動に変化をつけることによって、より子どもたちの制作意欲が持続すると考えているが、その手立てについて工夫が必要である。

■ その他

- ・蒲生マックスクラブ発表会では、陶芸教室を開催し活動の内容を広く地域の子どもたちにPRした。



【土からの作品作り】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう

■ 東近江市	
■ 活動名 蒲生マックスクラブ	
囲碁・将棋クラブ（体制構築型）	
年間開催日数	11日

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	4人

■ 活動の概要

- ・ 囲碁や将棋に親しむことを目的とし、初心者でも大歓迎の小中学生を対象とした囲碁・将棋を実施している。
- ・ 囲碁・将棋の基礎基本を学ぶことを中心に活動している。
- ・ 3月にはトーナメント大会を行い、クラブ員の学習の成果を確認している。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 地域に住む囲碁・将棋愛好会を指導者として、小中学生を対象とした初心者向きの教室を開催している。
- ・ 共通の趣味を通じて、世代間の交流も図っている。
- ・ 囲碁・将棋を通して、子どもたちにじっくり考える習慣を身につけることも目的としている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 集中力が持続するように、休憩を入れたり、活動時間を短めにしたりする等、工夫をしている。
- ・ レベルに応じて指導者対クラブ員、クラブ員同士の対局を行う等、活動に変化を取り入れ、子どもたちの囲碁・将棋に対する意欲が持続するように工夫している。3月にはトーナメント大会を行い学習の成果を確かめられるようにしている。
- ・ 対局において、教えたり、教えてもらったりする等のコミュニケーションを大切にし、世代間の交流が活発になるように工夫している。

■ 事業の成果

- ・ 囲碁・将棋に、さらに深く興味を持ってくれる子どもが出てきている。
- ・ クラブ員が友だちを誘って連れてくるなど、その面白さを他の人にも広げている。
- ・ 囲碁・将棋を通じて子どもたちに落ち着いて考える様子が見られた。
- ・ 活動や対局を通じて世代間を越えて、楽しむ様子が感じられた。

■ 事業実施上の課題

- ・ 活動時間（2時間程度）の間、子どもたちに集中してもらうことは難しい。
- ・ 活動に変化をつけ、集中を持続させる手立てが必要である。
- ・ 囲碁に興味を持つ子どもが少ないため、さらに囲碁のおもしろさや楽しさを啓発する必要がある。

■ 竜王町における土曜日の教育支援の取組

(体制構築型)

■めざす姿

町内の小学校に通う子どもたちが、様々な遊びや文化芸術の体験活動や異なった年齢の子ども同士および指導者をはじめとした地域の人々との交流を深めることにより、楽しみながら生きる力と豊かな創造力を培う。さらには、仲間づくりやそれぞれのクラブに応じた技能を伸ばすことを通して、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■運営委員会の設置

委員会名称	公民館子ども教室運営委員会		開催数	2	委員数	11
委員名簿	氏 名	所属・役職等		氏 名	所属・役職等	
	飯村 悟	元小学校長		石崎 邦江	元中学校教師	
	松田 俊二	地域住民		山口 龍三	元小学校長	
	前田 郷司	地域住民		藏口 きよ江	地域住民	
	関目 昭彦	地域住民		井堀 多美子	地域住民	
	加藤 正隆	元小学校長				
	久保井 美喜子	地域住民				
	西村 淳子	地域住民				

■本年度の活動

H27 5月 9日(土) 今年度の取組について ①活動内容の確認 ②親子で参加できる活動の検討

H28 1月 20日(水) 今年度の反省および次年度に向けての課題と対策の検討

3月 12日(土) キッズフェスティバル

■本年度の成果

子どもたちが様々な遊びや文化芸術の体験活動、また、異なった年齢の子ども同士の交流を通して、楽しみながら生きる力と豊かな創造力を培い、仲間づくりや各クラブに応じた技能を身につけることができた。

■今後の課題

○開講しているクラブによって、参加人数に大きく差がある。

○開講しているクラブを複数受講される方もおり、開催日程の調整が非常に困難である。

○スポーツ活動に参加される方も多くあり、開催日時も同じになりがちのため、どうしても参加者が限られてくる。

■ ところに響く演奏を！

■ 竜王町	
■ 活動名	和太鼓クラブ（体制構築型）
年間開催日数	22日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	12人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、和太鼓を通し、技述の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

町イベント等に積極的に参加し、演奏を成功させることにより、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「きっかけ」作りを行う。



【練習】



【竜王町文化祭での発表】

■ 実施に当たっての工夫

初心者・中級者で練習内容を分けることで、それぞれのレベルにあった練習ができ、早く上達できるようになる。
月2回ペースで開講することにより、前回習った内容を忘れることなく次の練習に生かすことができる。
和太鼓指導を生業とした指導者に指導してもらうことにより、技術の向上が図れる。
日々の練習を通して子どもたち同士が教え合うことにより、異なった年齢の子どもたちの交流ができる。

■ 事業の成果

技術の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
発表会に出演し、成功を重ねることによって何事にも挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

子どもたちの地域行事等により、参加者が極端に少なくなる日がある。和太鼓は練習するにもある程度人数がいないと困難である。

■ その他

○子どもの声

発表会に出るためにがんばって練習した。みんなとタイミングを合わせるのが難しかった。
初めて舞台上で発表するときはとても緊張したけれど、発表会に出るたびに自信がつき、うまく演奏できた。

○保護者の声

発表会を見るたびに、わが子の上達を実感できてよかった。
初めて和太鼓クラブを受講させたのですが、上達が早くびっくりしました。

○スタッフの声

このクラブを通して、みんなと協力し合いながらひとつの事（曲）に取り組むことの大切さを学んでもらえたと思います。
また、発表会を重ねることにより、自信がつき何事にも挑戦し、成し遂げる力を身につけることができたと思います。

■ いろんな技法を身につけよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	絵画クラブ（体制構築型）
年間開催日数	11日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	13人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、絵画を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

メッセージボードの作成や焼き物体験、秋の風景画など、毎回異なった内容に取り組むことにより、美術・絵画に対する様々な技法を習得することができる。



【写生会】



【「びわこにラブレターを！」メッセージボード作成】

■ 実施に当たっての工夫

秋には秋の風景画を作成したり、クリスマス前にはリースを作成するなど、楽しく学習できるように工夫をした。
元美術教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れる。
竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

技能の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
毎回異なった内容・技法を習い、習得することにより、何事にも挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

1回ずつの講座で完結するようにしているため、休んでしまうと、その時の講座内容が学習できない。
学校行事や地域行事などと重なる場合は参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

■ その他

○子どもの声

絵を描く技法をたくさん学べて良かった。
初めて焼き物体験をしたが、思い通りに焼き上がって良かった。
メッセージボードの作成や焼き物など、毎回新しいことにチャレンジできて良かった。

○保護者の声

クラブに参加してたくさんの絵画の技法を学び、すごく絵が上達したように思います。
毎回、美術・絵画に関するいろいろな事を教えてもらえるので、楽しくクラブに通っています。

○スタッフの声

クラブを通して、友だち作りや技能の向上、絵を描くことのすばらしさを学んでいただけて本当に良かったと思います。
写生会に出かけたり、土を練って焼き物をしたり、自然と触れ合いながら楽しく学習してもらえてとても良かったと思います。

■ 家族みんなで取り組もう！

■ 竜王町	
■ 活動名	宇宙科学クラブ（体制構築型）
年間開催日数	10日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	15人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、宇宙科学クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

天体観望や自然観察、食育・エコ体験ツアーなど、毎回、宇宙科学に関する異なった内容に取り組むことにより、何事にも興味を持ち、挑戦していく力を養う。



【科学工作】



【化石採集】

■ 実施に当たっての工夫

季節毎に天体観望会を行い、知識を深めてもらった。

元教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れた。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

技能の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。

天体観望や化石採集、自然観察や野鳥観察など様々な体験を通し、何事にも興味を持ち挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

化石採集や自然観察、天体観望など毎回講座の内容が異なるため、欠席するとその時の講座内容が学習できない。

学校行事や地域行事などが重なる場合は参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

■ その他

○子どもの声

自然観察会をしたとき、いろいろな植物や昆虫の種類を教えてもらって、とても勉強になった。観察した後、野草をてんぷらにして食べました。とてもおいしかったです。

友だちがたくさんできた。化石採集や天体観望、科学工作など、たくさんの事が体験できてとてもよかった。

○保護者の声

天体観望会や自然観察会、野鳥観察会では親子で参加でき、親子共々楽しく学習できとても良かったです。

子どもがいろいろなことに興味を持つようになり、とてもうれしく思います。

○スタッフの声

家族で参加いただける観察会などをたくさん開催し、家族で学習していただけたことは勿論、地域での交流（家族同士の交流）も生まれ、開催して良かったと実感しています。

また、子どもたちにとっては、宇宙科学クラブで学んだ体験や経験が、これから生きていく上での糧となり力となればと思います。

■ 生きる力を身につけよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	チャレンジクラブ（体制構築型）
年間開催日数	9日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	10人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、チャレンジクラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なる年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

竜王町で収穫したそばを使ったそば打ち体験や町内宿泊施設での宿泊体験、町内歴史ハイキング、等を通して、竜王町の自然とふれあい、自然の厳しさを学び、何事にも挑戦していく力を養った。



【宿泊体験】



【そば打ち体験】

■ 実施に当たっての工夫

元教師に指導してもらうことにより、技能の向上が図れた。

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、日々の練習を通して学区を越えた子どもたち同士の交流ができる。

町内で収穫した食材の使用や、町内の歴史ハイキング等へ参加することにより、郷土愛が生まれる。

■ 事業の成果

技能の向上が図れたとともに、異なる年齢同士の交流もできた。

宿泊体験や歴史ハイキング、スキー体験等、様々な体験をすることにより、何事にも興味を持ち挑戦していく力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

宿泊体験など事業内容によっては事前研修が必要であったり、講師意外に指導員をお願いする等、準備がかなり大変である。

学校行事や地域行事等と重なる場合は参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

チャレンジクラブは野外での活動が中心であり安全管理を十分にすることがあるため、内容によっては活動を制限するときもある。

■ その他

○子どもの声

竜王町内で収穫したそばを使ってそば打ち体験ができてとても良かった。

宿泊体験でロープワークや水鉄砲作り、BBQなど、いろんな体験が出来てよかった。特に、カヌー体験が楽しかった。

自然の厳しさが知れて良かった。

友だちがたくさんできた。

○保護者の声

家庭では体験できない事を体験させていただいて、とても感謝しています。

参加後、体験したことを笑顔で話してくれる姿に参加させてよかったと思っています。

○スタッフの声

そば打ち体験や宿泊体験、スキー体験など様々な体験を通し、自然の中での生きる知恵や勇気、互いの違いを認め励まし合う大切さを学んでくれたものと思います。チャレンジクラブの体験で得られたものは、これから社会に出た時に、生きていく糧となるものと確信しています。

■ みんなで協力して完成させよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	料理クラブ（体制構築型）
年間開催日数	9日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	10人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、料理クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

家族で参加できるようにしている。

初心者からでも作れるように簡単なレシピを考えている。

栄養のバランスも考え、栄養士さんにレシピを作成していただいている。



【調理説明】



【調理】

■ 実施に当たっての工夫

竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、練習を通して学区を越えた子どもたち同士の交流ができる。また、家族で参加できることによって、地域間（家族間）の交流も出来る。

班単位で協力して料理を完成させることにより、技能の向上はもとより、班での自分の役割をしっかりと把握し、完成させる責任感を養うことができる。

■ 事業の成果

料理の腕が上達することに加え、協力して完成させる喜びを実感することができた。

異なった年齢同士の交流もできた。

■ 事業実施上の課題

学校行事や地域行事などと重なる場合には参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

参加者が20名前後いるため、食材をそろえることがとても大変である。

■ その他

○子どもの声

たくさんの料理を覚えられて良かった。

みんなで協力して料理を作ることができたのでよかった。

○保護者の声

家族と一緒に参加できてとても良かった。

夏野菜を使った料理やクリスマスケーキ、おせち料理など季節に合った料理を教えてもらい、また、一見すると手の込んだ料理に見えて、簡単に作れる料理も教えていただいたので非常に良かったです。加えて、栄養士さんがレシピを作成されているので、栄養のバランスも考えられており、とても良かったです。

子どもが教えてもらった料理を家で作ってくれたのでとても感動した。

○スタッフの声

どの回も欠席される方の少なく、また、家族参加できる形で開催させていただいているため、地域間や世代間の交流もできてよかったと感じています。

■ 基礎から学ぼう！

■ 竜王町	
■ 活動名	書道クラブ（体制構築型）
年間開催日数	21日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	12人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、書道クラブを通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

硬筆・毛筆両方とも基礎から取り組むことにより、初心者でも参加できるようにしている。
展覧会に作品を出展することにより、自信がつき、また、何事にも挑戦する力を養う。



【硬筆の練習】



【硬筆・毛筆の練習】

■ 実施に当たっての工夫

硬筆・毛筆両方とも基礎から学習している。
受講生のレベルに応じた学習を行っている。
竜王小学校・竜王西小学校の子どもたちが集まることにより、練習を通して学区を越えた子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

書道の上達が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
何度も練習し、教えてもらうことにより、思い通りにできた時の達成感を味わうことができ、何事にもあきらめない力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

学校行事や地域行事などと重なる場合には参加者が減ってしまうため、日程調整が難しい。

■ その他

○子どもの声

はじめから教えてもらえてよかった。
すごく上達できたのでよかった。
展覧会で入賞できてうれしかった。

○保護者の声

上達してよかった。
何事にも集中して取り組めるようになった。このクラブに参加させてよかったと思う。

○スタッフの声

基礎から楽しみながら学習してもらえてよかった。
このクラブから展覧会などで入賞する子どももいて、本人の努力はもちろん、しっかり練習できる環境が整っていることを改めて実感した。

■ 何事にも挑戦しよう！

■ 竜王町	
■ 活動名	吹奏楽教室（体制構築型）
年間開催日数	40日

コーディネーター数	3人
土曜教育推進員数	11人
子どもの平均参加人数	22人

■ 活動の概要

町内の小学校に通う子どもたちが、吹奏楽を通し、技能の向上はもちろんのこと、竜王小学校・竜王西小学校両校の異なった年齢の子どもたち同士が発表会等により地域の人々との交流を深め、さらには、何事にも挑戦する勇気を育み、自らの可能性を切り拓く「生きる力」を身につける。

■ 特徴的な活動内容

県の大会や町イベント等に積極的に参加し、演奏を成功させることにより、何事にも挑戦し、自らの可能性を切り拓く「きっかけ」作りを行う。



【練習】



【滋賀県ジュニアミュージックフェスティバル】

■ 実施に当たっての工夫

毎週土曜日の夜にすることにより、受講生の地域行事などと比較的重なることなく開講することができる。
指導者を3名にすることにより、分からないところはじっくりと教えてもらうことができる。
初心者・中級者と分けて練習することにより、それぞれのレベルにあった練習ができる。
日々の練習を通して、異なった年齢の子どもたち同士の交流ができる。

■ 事業の成果

技能の向上が図れたとともに、異なった年齢同士の交流もできた。
団体行動の厳しさや何事にも挑戦する心を学ぶことができた。
県の大会や町イベントに出演し、演奏を重ねることによって自らの可能性を切り拓く力を養うことができた。

■ 事業実施上の課題

受講生はそれぞれ担当する楽器が決まっており、欠席者があると練習に支障が出ることもある。
練習の時間帯が夜間であるため、防犯対策を十分に講じる必要がある。

■ その他

○子どもの声

始めは、音を出すことすら難しかったけど、一生懸命練習して、今では大会で演奏できるほど上達しました。
友だちがたくさんできた。たくさんの曲が演奏できるようになった。
去年と違う楽器の担当になった。色んな楽器が演奏できてよかった。

○保護者の声

家でも練習している姿をみて、とてもうれしく思いました。
発表会でわが子の演奏を聴き、うまく演奏していたことに驚かされました。
吹奏楽に一生懸命に取り組んでいる子どもの姿を見て、うれしい気持ちとクラブに参加させてよかったと本当に思いました。

○スタッフの声

演奏会や発表会に参加することにより、日頃の練習の成果を確認することができ、また、子どもたちの達成感で満ち溢れた笑顔を見るたびに、子どもたちの成長を実感でき、この経験が将来、壁にぶつかった時に乗り越えるための糧となれば幸いです。

■ 多賀町における土曜日の教育支援の取組 (「学ぶ力」学習支援型)

■めざす姿

本町が目指す将来像を実現するために、「まちづくり」は「ひとづくり」であるとの基本認識に立ち、「子育て教育熱心なまち」の具現化を進めている。今日的課題である少子高齢化・人口減少は、本町においては重点課題となっている。現在の住民が安心して住み続けられる地域にするとともに、町外からの転入や定住化を促進するための重要施策として、教育が大きな役割を果たすものと考えている。そのために「安心して子育てができる多賀町」としなければならない。保護者にとっては「通わせたい園・学校」、子どもにとっては「通いたい園・学校」づくりを進めることが肝要である。

■本年度の活動

昨年度までに比べて、中学生を対象とする土曜講座への参加者が増加し、予定していた講師を増やすなどの対応を行ってきた。地域教育力推進協議会でも本町の特筆すべき取組のひとつであり、今後の継続を望むとの意見をいただいている。

中学生を対象とする土曜講座に加えて、幼児、児童、高校生を対象とした新たな教育支援の取組を検討している。このことについては、少子高齢化、人口減少の傾向が著しい地区において、その活性化を検討するための組織を立ち上げ、その方策のひとつとして検討を行っているところである。



【土曜講座(サタスタ)】

■本年度の成果

土曜講座の成果については後頁に記載しているが、上述の活性化に関する組織については、教育委員会だけでなく各課を横断した委員会組織となっており、有効的な施策の具現化を目指した有益な話し合いが進められている。また、この組織は近隣や県外の大学関係者、教育関連企業、情報関連企業、通信関連企業とも協働しながら、他市町の保護者世代から見ても魅力的であり、ニュースバリューのある新たな取組の構築を図っている。

■今後の課題

「コミュニティスクール」「地域を担う人材育成」「地域提案型の学校を核とした地域魅力化」など文科省関連事業は種々あり、それぞれの事業は本町の実情に照らし合わせて、取り組みたい、取り組むべき事業とも考えられるが、規模の小さな教委にあっては、自力で事業に取り組む余力がないというのが現実の姿でもある。このような実態から本年度、各課を横断した組織をつくり、種々の課題に応じた施策を講じていくという取組方は、実現化、実効性が大いに期待できる新たな形である。

■その他

多賀町地域教育力推進協議会について

○開催年数：年 11 回

○委員数：26 名

○構成内訳 各種団体 13 団体、企業等 5 企業、学校関係 3 校 行政 5 機関

■ みなさんのやる気を応援します！ 土曜講座（サタスタ）

■ 多賀町	
■ 活動名	土曜講座（サタスタ）（「学ぶ力」学習支援型）
年間開催日数	20日（3年生は17日）

コーディネーター数	1人
土曜教育推進員数	4人
子どもの平均参加人数	48人

■ 活動の概要

- 目的：・「学ぶことの楽しさ」「分かることの喜び」「確かな学力」の向上を図る。
・学習への自信をつけ、目標に向かって頑張る気持ちを育てる。

開講日：平成27年9月5日（土）～平成28年3月の間の土曜日に20回

時間：午前9時～12時

会場：あけぼのパーク多賀

対象：多賀中学校生徒 1～3年

定員：10～40名（会場によって異なる）

費用：3,705円（教材費として）

■ 特徴的な活動内容

民間の塾との提携により、講師の派遣を受け、国語・数学・英語の3教科の学習を学年別に復習を中心に50分間ずつ行う。

■ 実施に当たっての工夫

- ・多くの生徒が参加できるように本年度は1学期中盤に案内を配布し、募集を開始した。
- ・多賀中学校の年間指導計画に基づき、講座を実施した。そのため定期テスト前の振り返り学習を充実させるようにした。
- ・計画・調整、実施については、教育委員会が窓口となって行うことで、中学校教職員へ負担をかけないように配慮した。
- ・確かな学力の定着を図るため、受講生が継続して参加できるように中学校との日程調整を行ってきた。

■ 事業の成果

本年度、多賀中学校の全生徒の1/4にあたる55名が土曜講座へ参加した。町内には中学生を対象とする塾がなく、この土曜講座が貴重な学習の機会となっている。また、町予算と県の事業補助により、保護者へは教材費のみの低負担となっていることも参加者が多くなっていることの要因のひとつと考えられる。

【生徒の声より】

- ・自分のわからなかったところが見つかるようになり、受験にむけて、どのようにしていけばいいかなどいろいろ参考になりました。
- ・今までわからなかったところの詳しい解説をしてくれたところがとても良く、自分の自信につながっていったと思います。
- ・学校で習ったことから、習っていないことまで教えてくださったし、とてもわかりやすく、テストの点数も伸びました。サタスタを受講して、本当に良かったです。

【保護者の声より】

- ・近くで英・数・国の3教科を教えてください、また低価格なので1年生の時からサタスタにはお世話になっています。先生方とも気さくに話せて楽しく行っていたようなので、3年生になってもサタスタに通わせようと思っています。多賀町には感謝です！！
- ・土曜の朝からという時間帯は、生活の習慣が崩れずありがたかったです。
- ・普通の塾よりは安い金額で長期に渡り教えて頂いてとても助かりました。今後も続けて頂けると有難いと思います。近いので保護者の送迎もしなくていいので、その点でも助かりました。

■ 事業実施上の課題

土曜日の午前中は部活動に参加する生徒も多く、午後からの開催とすれば、さらに受講生も増えるものと思われる。しかし、午後からは塾側として講師確保ができないという事情があり実現は難しい。

■ その他

各土曜日の講座終了後には、役場庁舎より次回までの課題をFAXにて、受講生の家庭へ送信している。



2年生の学習の様子

多賀中学校のみなさんへ

サタスタ 2015年度 土曜講座 受講生募集！

主催 多賀町教育委員会

「もっと勉強をがんばりたい」「苦手な教科の勉強を分かるようにしたい」「得意な教科の力をもっと伸ばしたい」と思っているあなた、多賀町では、そんなあなたを応援するために、今年も土曜講座「サタスタ」を開催します。塾の先生による復習を中心とした学習をします。

みなさんのやる気を応援します。是非、参加してください。

■開講日	土曜日 9月5日（土）～3月まで 1、2年：20回 3年：17回	■定員	各10～30人
■開講時間	午前9時から12時	■開講場所	多賀町あけぼのパーク多賀
■対象	1年生：文化財センター 2年生：あけぼのパーク多賀 3年生：あけぼのパーク多賀	■受講料	国語・数学・英語の3教科 塾講師（明光塾の先生）による一斉授業で、毎回、3教科の学習を50分間ずつ行います。
■費用	教材費として 3,705円（開講日に集金します）	■持ち物	筆記用具

◆申込方法◆ 下の申込用紙に必要事項を記入し、教育委員会へ直接に送付ください。
◆申込先◆ 7月13日（月）※各課の関係で定員に足り次第締め切ります。
◆送付先◆ 多賀町教育委員会（〒954-8501 多賀町役場 1号館 2階）TEL：48-8123 FAX：48-8155 郵送：2-3741（FAX専用）

『土曜講座「サタスタ」』受講申込書（7月13日（月）受付No.）

氏名	学年	年 組	性別	男・女
住 所	〒	TEL	NIT	FAX
保護者	TEL	有 無		

※この申込書は、多賀町個人情報保護条例に基づき厳正に取り扱います。
※受講料の送付等はFAXにて送ります。有線がない方で、NITのFAXをお用いの場合はFAX番号も記入ください。